SONY

3-063-397-02(2)

SACD/DVDプレーヤー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

DVP-S9000ES

ソニー株式会社　〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ
- ナビダイヤル……………… 0570-00-3311
  （全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます）
- 携帯電話・PHSでのご利用は…… 03-5448-3311
- Fax ……………………………… 0466-31-2595

受付時間：
月～金 9:00～20:00
土・日・祝日 9:00～17:00

保証期間中の接続・操作・故障に関するお問い合わせは
テクニカルインフォメーションセンターへ
フリーダイヤル　0120-37-8154

Printed in Japan

Sony online　http://www.world.sony.com/

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

この説明書は再生紙を使用しています。

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

4～7ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。12ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

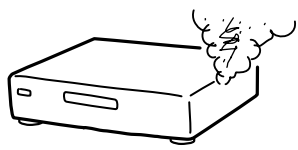
定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

❶電源を切る

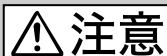
❷電源プラグをコンセントから抜く

❸お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

指挟み

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

接触禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

強制

プラグをコンセントから抜く

目次

⚠警告

火災　感電

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

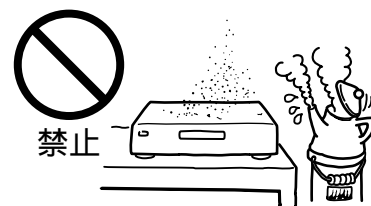
電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

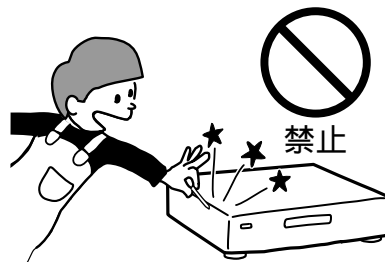
- 製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

➡万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこりの多い場所や、油煙や湯気のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場や加湿器のそばなどでは絶対に使用しないでください。

内部に水や異物を入れない

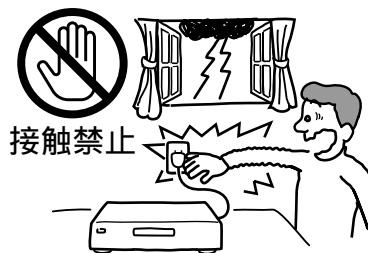
水や異物が入ると火災や感電の原因となります。

➡万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。

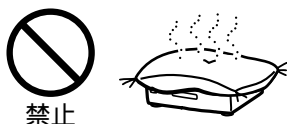
雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。

本機は国内専用です

交流100Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災・感電の原因となります。
また、コンセントの定格を越えて使用しないでください。

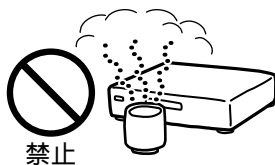
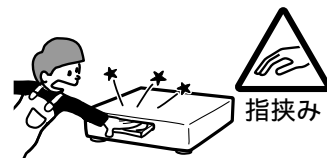
⚠注意 下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない
感電の原因となることがあります。

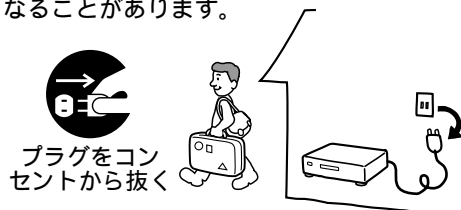
風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない
布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

大音量で長時間つづけて聞かない
耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときにご注意ください。

➡呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。

安定した場所に置く
ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。

トレイの前に物を置かない
ディスクトレイが開く際に、物が倒れて破損やけがの原因となることがあります。本体の前に物を置かないでください。

幼児の手の届かない場所に置く
ディスクの挿入口などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。

指挟み

コード類は正しく配置する
電源コードやAVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く
長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

お手入れの際、電源プラグを抜く
電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

ひび割れ、変形したディスクや補修したディスクを再生しない
本体内部でディスクが破損し、けがの原因となることがあります。

電池についての安全上のご注意

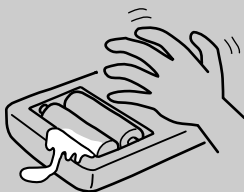
液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠警告

アルカリ電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけがが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることがあります。

接触禁止

必ず次の処理をする

➡液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

強制

➡液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

➡万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

禁止

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

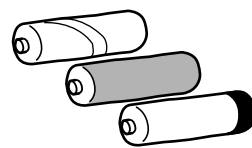
禁止

⚠注意

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

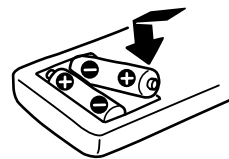
電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

➡電池の品番を確かめ、お使いください。

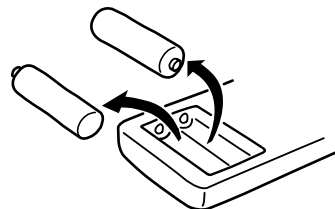
禁止

＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

➡機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

強制

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

強制

主な特長

プログレッシブ（525p）方式テレビに対応（57ページ）

コンポーネントビデオ出力を利用することで、通常のインターレース方式のテレビだけでなく、プログレッシブ方式のテレビでも映像をお楽しみいただけます。
プログレッシブ方式で出力するときは、映像の素材（フィルムまたはビデオ）に合わせて画像を処理するので、大画面でもちらつきのない、美しい映像をお楽しみいただけます。

SACD（スーパーオーディオCD）に対応（10、24ページ）

通常の音楽CD（CDDA）だけでなく、さらに高音質な音楽をお楽しみいただけるステレオ音声スーパーオーディオCD（SACD）を再生できます。HD（ハイデンシティ）レイヤーの再生にも対応しています。

詳細な画質設定のためのビデオコントロール機能（41ページ）

明るさや色合いといった通常の画質設定に加えて、各種のノイズリダクションやシャープネス調整など、画質をお好みに合わせて詳細に調整するための機能を豊富に用意しています。
また、ガンマ補正などで映像中の暗い部分と明るい部分を調整し、ディテール（細部）を見やすくする機能もあります。
調整した画像をディスクごとに記憶しておいたり（プレイバックメモリー機能）、どのディスクにも使える画質設定の設定値として5つのメモリーを本機に記憶させておくこともできます。

高音質なサウンドを実現（24ページ）

本体のAUDIO DIRECTボタンを押すだけで、デジタル音声や映像の出力を止めることができます。音声のデジタル回路と映像のデジタルおよびアナログ回路による影響を抑え、よりきれいなサウンドで再生できます。スーパーオーディオCDの再生時などに、高音質なサウンドをお楽しみいただけます。
リモコンのビデオ オン／オフボタンを使って、映像の出力を簡単に入／切することもできます。

カスタム視聴年齢制限（45ページ）

ディスクごとに300枚分の視聴制限を設定し、本機での再生を制限することができます。制限を解除して見るには、暗証番号を入力する必要があります。

表示窓の明るさ切り換えとリモコンボタン点灯機能（25、58ページ）

映画などのディスクを再生時に、お部屋の雰囲気をこわさないように本体の表示窓を暗くしたり、自動的に消したりできます。また、お部屋の照明を暗くしている場合でも、リモコンが操作できるように、リモコンの一部のボタンを点灯させることができます。

この取扱説明書の使いかた

- この取扱説明書では、リモコンのボタンを使った操作説明を主体にしています。リモコンと同じマークの本体のボタンも同じように使えます。
- 「設置と準備」（14～21ページ）をご覧になって接続などの準備を済ませてください。
- 基本的な使いかたは、「再生する」（22～30ページ）をご覧ください。
- さらに進んだ使いかたについては、31ページ以降をご覧ください。
- この取扱説明書では、次の記号を使っています。

記号	意味
（ヒントマーク）	知っていると便利な情報です。
DVD	DVDビデオで使える機能です。
VIDEO CD	ビデオCDで使える機能です。
SACD CD	音楽用CD、スーパーオーディオCD（SACD）で使える機能です。

再生できるディスクについて

本機では次のディスクを再生できます。次のディスク以外は再生できません。

ディスクの種類	DVDビデオ	スーパーオーディオCD（SACD）	音楽用CD	ビデオCD
ディスクに付いているマーク（ロゴ）	DVD VIDEO	SUPER AUDIO CD	COMPACT disc DIGITAL AUDIO	COMPACT disc DIGITAL VIDEO / VIDEO CD
記録しているもの	音声＋映像	音声	音声	音声＋映像

"DVD VIDEO" ロゴは商標です。

本機はNTSCカラーテレビ方式に対応しています。NTSC以外のカラーテレビ方式（PAL、SECAM）対応のディスクは再生できません。

再生可能なDVDの地域番号（リージョンコード）について

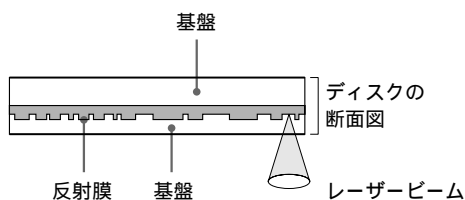
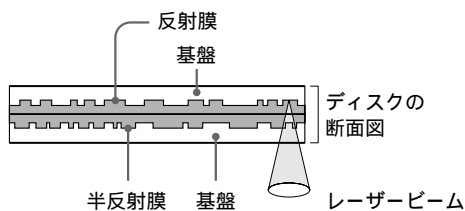
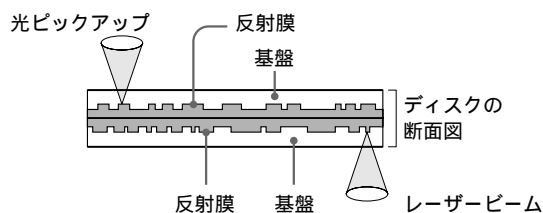
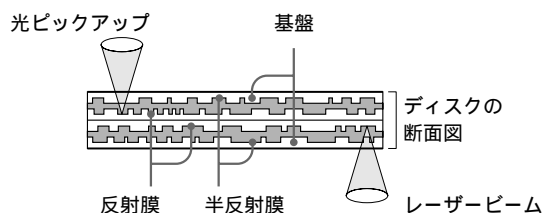
DVDには 2 のように地域番号が表示されているものがあります。表示中の数字は再生できるプレーヤーの地域番号を表わしています。この表示に「2」が含まれていない、または ALL の表示のないDVDは、本機で再生できません。このようなDVDを再生しようとしたときは、「このディスクは地域制限により再生を禁止されています」と画面に表示されます。また地域番号の表示がないDVDでも地域制限されている場合があり、本機で再生できないことがあります。

DVD、ビデオCD再生時の操作上のご注意

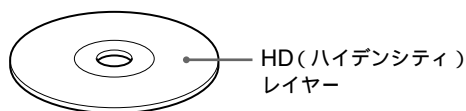
DVD、ビデオCDはソフト制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本機ではソフト制作者が意図したディスク内容にしたがって再生を行うため、操作したとおりに機能が働かない場合があります。再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

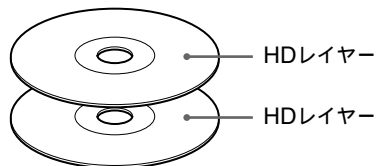
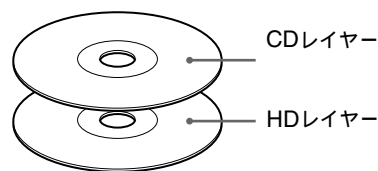
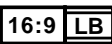
DVD

音声と映像を記録できるディスクで、12cmと8cmのサイズがあります。現在のCD-ROMの約7倍の容量があり、12cmのディスクの場合、最長で約4時間（両面の場合約8時間）の再生が可能です。DVDは、片面1層、片面2層、両面1層、両面2層の4種類のディスクが規格化されています。

- 片面1層ディスク：容量4.7GB

- 片面2層ディスク：容量8.5GB

- 両面1層ディスク：容量9.4GB

- 両面2層ディスク：容量17GB

スーパーオーディオCD（SACD）

DSD（ダイレクト・ストリーム・デジタル）方式を採用した、限りなく原音に近い音楽を記録できるディスクです。DSD方式では、CDの64倍にあたるサンプリング周波数2.8224MHz、1ビット量子化を採用し、従来のCDで用いられているPCM方式の4倍の情報量を記録できます。
スーパーオーディオCDのディスクには次の種類があります。

- **シングルレイヤーディスク**
  HD（ハイデンシティ）レイヤー*単層のSACDです。

* SACD用の高密度信号層です。

- **デュアルレイヤーディスク**
  HDレイヤーが2層になっているディスクで、長時間再生が可能です。なお、ディアルレイヤーディスクは片面2層構造のため、ディスクを裏返す必要はありません。

- **ハイブリッドディスク**
  HDレイヤーとCDレイヤーとが2層になっているディスクです。なお、ハイブリッドディスクは片面2層構造のため、ディスクを裏返す必要はありません。本機では、停止中にリモコンのSACD/CDボタンを押して、再生するレイヤーを選ぶことができます。

音楽用CD

音声を記録できるディスクで、12cmと8cm（CDシングル）のサイズがあります。12cmのディスクは最長で74分、8cmのディスクは最長で20分の再生が可能です。

ビデオCD

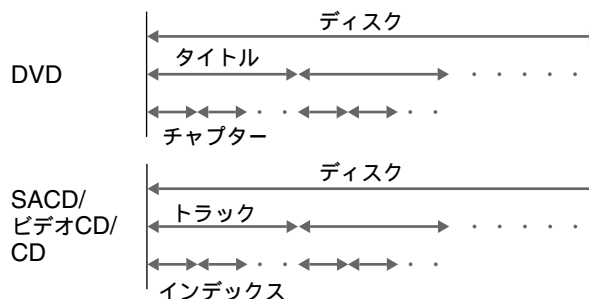
音楽用CDと同じサイズのディスクに、音声と映像を記録できます。12cmのディスクは最長で74分、8cmのディスクは最長で20分の再生が可能です。

DVDに表示されているマークの説明

DVDのディスクやパッケージに表示されているマークには以下のようなものがあります。これらのマークは、ディスクに記録されている内容や、使える機能を表しています。
ただし、機能があっても、マークが表示されていないDVDもあります。

マーク	意味
3	音声のトラック数を表します。
2	字幕の数を表します。
3	アングル数を表します。
16:9 LB	選択可能な画像アスペクト比を表します。
2	再生可能な地域番号を表します。

ディスクに関する用語の説明

- **タイトル**
  DVDに記録されている映像や曲のいちばん大きな単位です。通常は映像ソフトでは映画1作品、音楽ソフトではアルバム1枚（または1曲）にあたります。それぞれのタイトルに順に付けられた番号をタイトル番号といいます。
- **チャプター**
  DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルより小さい単位をチャプターといいます。1つのタイトルはいくつかのチャプターで構成されます。それぞれのチャプターに順に付けられた番号をチャプター番号といいます。
  ディスクによってはチャプターが記録されていないものもあります。
- **トラック**
  ビデオCDやSACD/CDに記録されている映像や曲の区切り（1曲分）をトラックといいます。それぞれのトラックに順に付けられた番号をトラック番号といいます。

- **インデックス（SACD/CD）/ビデオインデックス（ビデオCD）**
  ビデオCDおよびSACD/CDで、再生したい部分を見つけやすいように、1つのトラックをいくつかの部分に区切って番号を付けたものです。
  ディスクによってはインデックスが記録されていないものもあります。
- **シーン**
  PBC（プレイバックコントロール）対応のビデオCDで、メニュー画面や動画、静止画の区切りのことをシーンといいます。シーンごとに順に付けられた番号をシーン番号といいます。

PBC（プレイバックコントロール）について（ビデオCD）

本機は、PBC対応ビデオCD（バージョン2.0）にも対応しています。（PBCとは、Playback（プレイバック） Control（コントロール）の略です。）
ディスクのタイプによって、次の2種類の再生を楽しめます。

ディスクのタイプ	楽しみかた
PBC対応でないビデオCD（バージョン1.1）	音楽用CDと同じように操作して、音声と映像（動画）を再生できます。
PBC対応ビデオCD（バージョン2.0）	上記（PBC対応でない場合）の楽しみかたに加えて、テレビ画面に表示されるメニュー画面（選択画面）を使って、対話型のソフトや検索機能のあるソフトを再生できます（PBC再生、24ページ）。また、高精細の静止画も再生できます。

本機で再生できないディスクについて

本機では次のディスクなどを再生することはできません。

- CD-ROM（PHOTO CDを含む）
- CD-R
- CD-EXTRAのデータ部分
- DVD-ROM
- DVDオーディオ

DTS*で記録されたCDを再生するとアナログ出力からは極端に大きなノイズが出ます。DVDプレーヤーのアナログ出力をアンプにつないでいるときは、お手持ちのシステムが破損しないよう細心の注意を払う必要があります。DTS Digital Surround™での再生をお楽しみいただくには、DVDプレーヤーのデジタル出力に5.1チャンネルの外部DTS Digital Surround™デコーダーを接続する必要があります。

本機は、マクロビジョンコーポレーションやその他の権利者が保有する、米国特許上の方法クレーム及びその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンコーポレーションの許諾が必要であり、マクロビジョンコーポレーションが特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。リバースエンジニアリングまたは分解は禁止されています。

本機をプログレッシブ（525P）方式に対応するテレビにつなぎ、プログレッシブ出力した場合に、画像の乱れなどの問題が生じた場合は、インターレース方式でご覧になることをお勧めします。本機とテレビとの互換性に関しては、サービス窓口にお問い合わせください。

* Digital Theater Systems, Inc.からの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital Surround、DTS Digital OutはDigital Theater Systems, Inc.の商標です。

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。
  （チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

設置場所を変えるときは

ディスクを入れたまま、本機を動かさないでください。
ディスクを入れたまま動かすと、ディスクを傷めることがあります。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

結露について

部屋の暖房を入れた直後など、内部のレンズに水滴がつくことがあります。これを結露といいます。このときは、正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることがあります。本機を使わないときは、ディスクを取り出しておいてください。
結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約30分放置し、再び電源を入れ直してからお使いください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

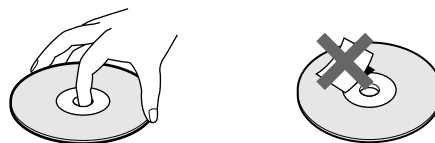
本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

残像現象（画像の焼きつき）のご注意
DVDメニューやタイトルメニュー、ビデオCDのメニュー、本機の設定画面などの静止画をテレビ画面に表示したまま長時間放置しないでください。画面に残像現象（画像の焼きつき）を起こす場合があります。特にプロジェクションテレビでは残像現象（画像の焼きつき）が起こりやすいのでご注意ください。

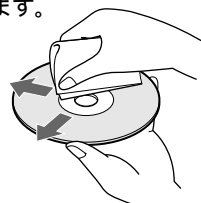
ディスクの取り扱い上のご注意

取り扱いかた

- 再生面に手を触れないように持ちます。
- 紙やシールを貼らないでください。
- ディスクにセロハンテープやレンタルディスクのラベルなどの糊がはみ出したり、はがした痕があるものはお使いにならないでください。そのまま本機にかけるとディスクが取り出せなくなったり、故障する原因となることがあります。

保存のしかた

- 直射日光が当たるところなど温度の高い所、湿度の高い所には置かないでください。
- ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに重ねたり、立てかけておくと変形の原因になります。

お手入れのしかた

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、映像の乱れや音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。

- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた柔らかい布で拭いた後、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、ディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

特殊な形状のディスクについて

本機でお使いいただけるディスクは円形ディスクのみです。円形以外の特殊な形状（星形、ハート型など）をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となることがあります。

設置と準備

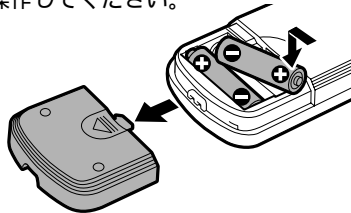
ここでは、本機とテレビやアンプとの接続のしかたを説明します。なお、本機は映像入力端子がないテレビには接続できません。**接続するときは、機器の電源を必ず切ってください。**

付属品を確認する

次の付属品がそろっているかを確認してください。
- 電源コード（1）
- 映像音声コード（ピンプラグ×3↔ピンプラグ×3）（1）
- S映像コード（1）
- リモコン RMT-D122J（1）
- 単3形乾電池（R6）（2）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）
- 保証書（1）

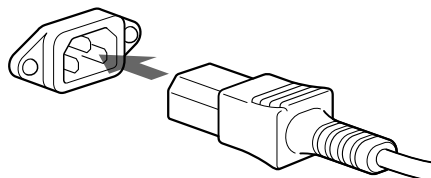
もし、付属品がそろっていないときは、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

リモコンに電池を入れる

付属のリモコンで本機を操作することができます。
⊕と⊖の向きを合わせて、単3形乾電池（R6、付属）2個を入れてください。
本機を操作するときは、本機のリモコン受光部🅁にリモコンを向けて操作してください。

リモコンでテレビやAVアンプを操作できます。
65ページをご覧ください。

ご注意
- 乾電池の使いかたを誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
  - ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
  - 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  - 液漏れしたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部 🅁 に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

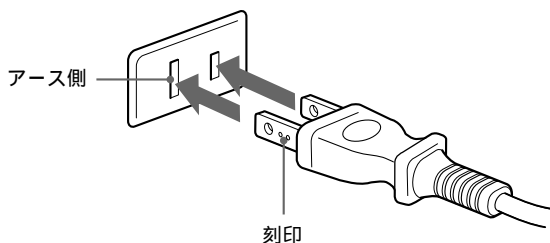
電源コードを接続する

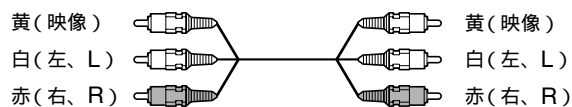
付属の電源コードを本体後面のAC IN端子に接続します。

テレビとつなぐ

テレビのスピーカー（L：左、R：右）から音を出すときの接続です。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

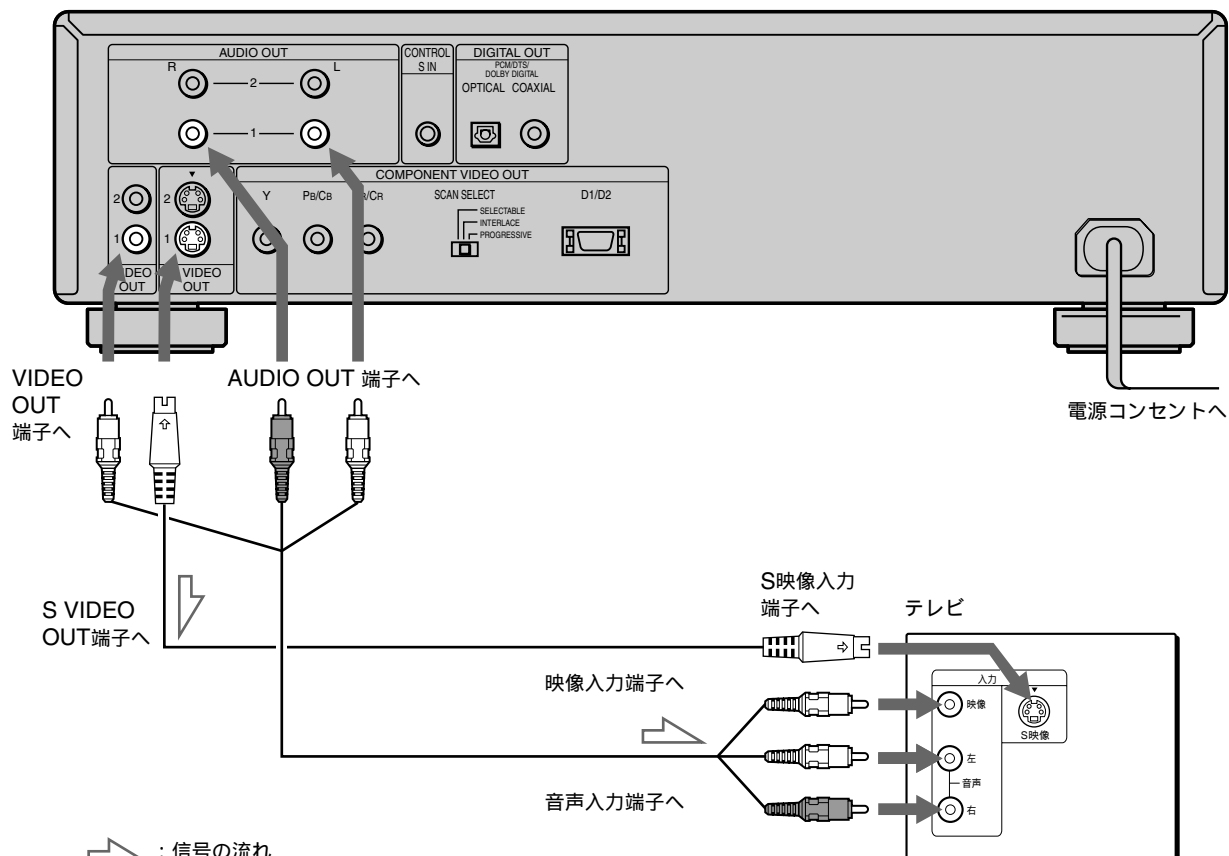
電源コードの極性について

各機器の電源コードの極性を合わせて、より良い音質で音楽をお楽しみいただくため、本機の電源コードには電極に刻印が入っています。刻印が入っている側がコンセントの差し込み口の長い方（アース側）にくるように差し込みます。

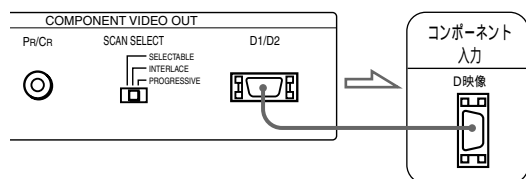
電源コードはすべての接続が終わってから差し込んでください。

必要な接続コード

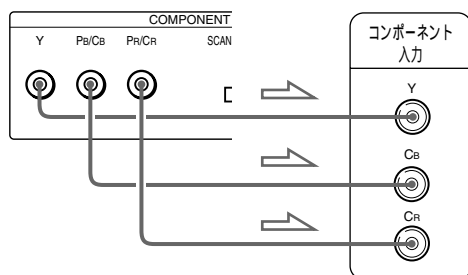
映像音声コード（付属：1本）

S映像コード（付属：1本）

黄（映像、VIDEO OUT）端子に黄プラグを、白（左、L）端子には白プラグを、赤（右、R）端子には赤プラグをつなぎます。つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音やノイズの原因になります。

S映像入力端子付きのテレビをお使いのときは、黄色の映像コードでつなぐ代わりに、S映像コード（付属）をつなぎます。よりきれいな映像が楽しめます。

本機のCOMPONENT VIDEO OUT（コンポーネントビデオ出力）端子の信号に対応した入力端子を持つ機器につなぐときは

■ **D映像の信号に対応した入力端子を持つテレビにつなぐときは**

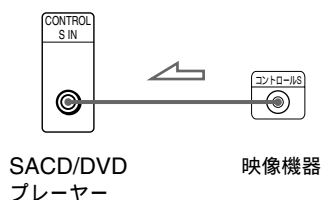
D端子ケーブル（別売り）を使って、D映像入力端子につなぎます。ケーブル1本で簡単にコンポーネント映像で接続でき、より高画質な画像を楽しめます。
本機はD2映像信号まで対応しています。

■ **Y、PB/CB、PR/CRの信号に対応した入力端子を持つテレビやプロジェクターにつなぐときは**

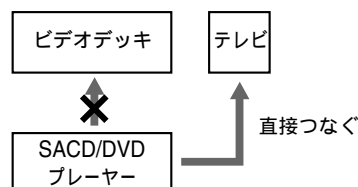
75Ω同軸コンポーネント映像コード（別売り）、または映像コード（別売り）の同じ種類で同じ長さのものを3本使います。輝度（Y）、コンポーネント（PB/CB、PR/CR）信号がそれぞれ独立して出力されるので、映像の本来の色を忠実に再現します。

■ **コントロールS端子のある映像機器につなぐときは**

映像および音声のコードをつないでから、コントロールSコード（別売り）で接続します。コントロールSコードでつなぐと、つないだ他機から本機を制御できます。詳しくはつないだ機器の説明書をご覧ください。

コントロールSコード（別売り）

SACD/DVD
プレーヤー

映像機器

ご注意

- つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- パーソナルコンピュータ用のモニターケーブルは、本機のD1/D2端子には接続できません。
- ハイビジョン機器のハイビジョン専用コンポーネントビデオ入力（Y/PB/PR）には対応していません。
- 本機とビデオデッキを接続しないでください。ビデオデッキを経由して本機の映像をテレビに映すと、画像が乱れることがあります。

- テレビやアンプによっては、本機の音声出力のレベルが高いため、音が歪むことがあります。そのときは設定画面の「オーディオ設定」から「オーディオ ATT」を選んで「入」にしてください。詳しくは61ページをご覧ください。
- D1/D2端子を使ってプログレッシブ（525P）方式で出力するには、つないだ機器のD映像入力端子がD2以上に対応している必要があります。

設定をする

接続した機器に合わせて、本機の設定をします。
設定を変えるには、設定画面を使います。詳しくは53ページをご覧ください。

■ **ワイドテレビまたはワイドモード機能付きのテレビとつないだとき**

設定画面の「画面設定」の「TVタイプ」を「16:9」にします。お買い上げ時は「16:9」に設定されています（56ページ）。

■ **通常のテレビとつないだとき**

設定画面の「画面設定」の「TVタイプ」を「4:3 レターボックス」または「4:3 パンスキャン」にします（56ページ）。

■ **プログレッシブ（525P）方式に対応したテレビとCOMPONENT VIDEO OUT（D1/D2またはY、PB/CB、PR/CR）端子でつないだとき**

設定画面の「視聴設定」の「コンポーネント出力」を「プログレッシブ」にします。（57ページ）。

アンプとつなぐ

DTSデコーダーまたはドルビー*デジタルデコーダーが内蔵されていないアンプにつないだスピーカーから音を出すときの接続です。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

DTSまたはドルビーデジタルデコーダー内蔵のデジタル機器をお持ちの場合は

光デジタル接続コードまたは同軸デジタルコードを本機のDIGITAL OUT OPTICALまたはCOAXIAL端子に接続すると、マルチチャンネルサラウンドサウンドを楽しむことができます。詳しくは、19ページをご覧ください。

電源コードは、アンプなどの電源スイッチに連動した電源コンセントにつながないでください。アンプの電源を切ったときに、プレイバックメモリーやディスクメモ、メニュー設定の内容が消去されることがあります。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
非公開機密著作物。著作権1992–1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

必要な接続コード

音声コード（別売り：1本）

白（左、L）
赤（右、R）

白（左、L）
赤（右、R）

S映像コード（付属：1本）

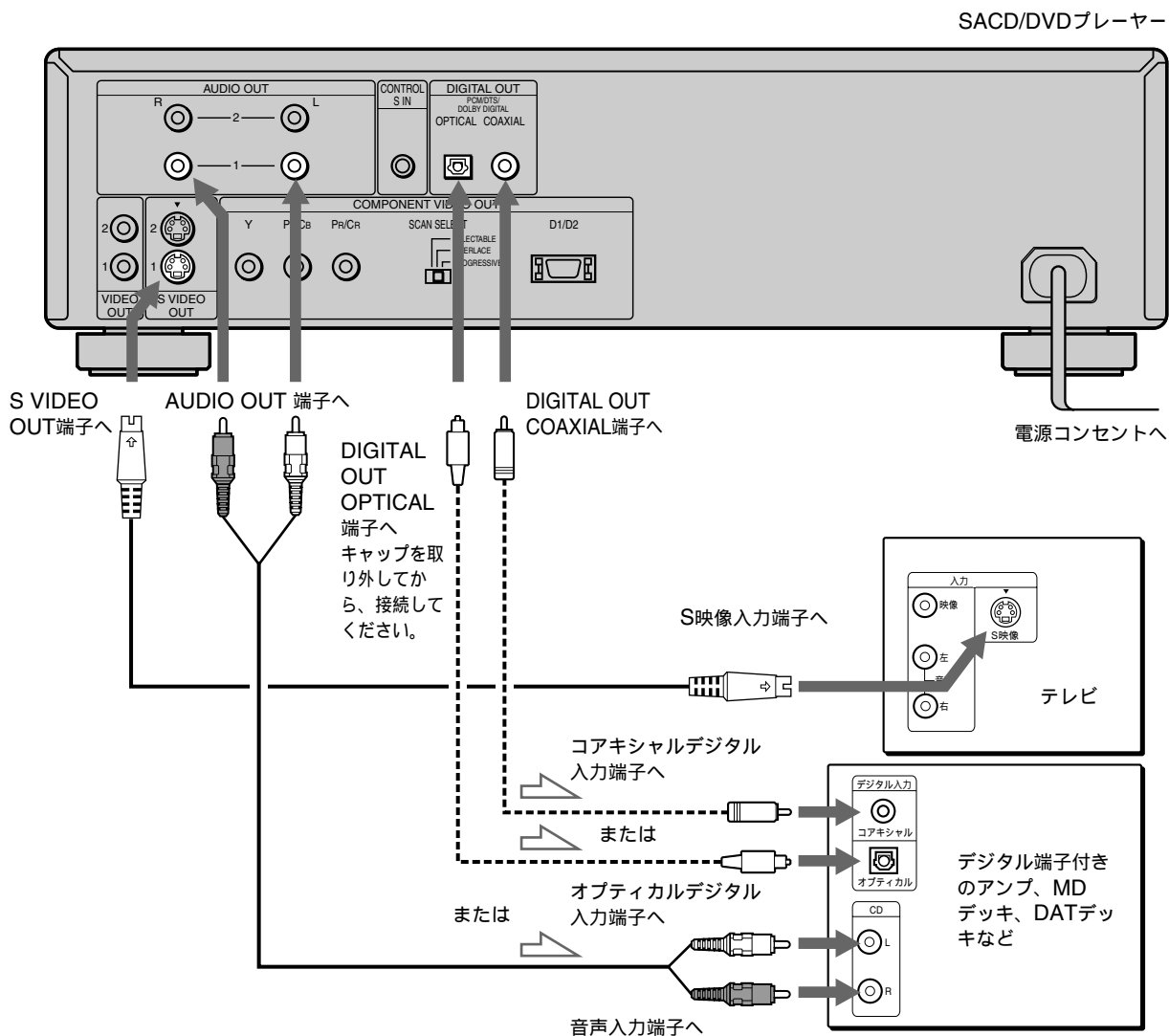
白（左、L）端子には白プラグを、赤（右、R）端子には赤プラグをつなぎます。つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音やノイズの原因になります。

SACD/DVDプレーヤー

AUDIO OUT
R
L
CONTROL S IN
DIGITAL OUT
PCM/DTS/ DOLBY DIGITAL
OPTICAL COAXIAL
COMPONENT VIDEO OUT
Y
PB/CB
PR/CR
SCAN SELECT
D1/D2
VIDEO OUT
S VIDEO OUT

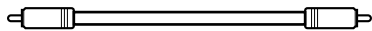
S VIDEO OUT端子へ
AUDIO OUT 端子へ
DIGITAL OUT OPTICAL 端子へ
キャップを取り外してから、接続してください。
DIGITAL OUT COAXIAL端子へ
電源コンセントへ

S映像入力端子へ
入力
映像
S映像
左
右
テレビ

コアキシャルデジタル入力端子へ
または
オプティカルデジタル入力端子へ
または
デジタル入力
コアキシャル
オプティカル
CD
L
R
デジタル端子付きのアンプ、MDデッキ、DATデッキなど
音声入力端子へ

：信号の流れ

デジタル端子付きのアンプやMDデッキ、DATデッキにつなぐときは、オーディオ用光デジタル接続コード（別売り）または、オーディオ用同軸デジタル接続コード（別売り）を使います。

光デジタル接続コード（別売り：1本）

75Ω同軸デジタル接続コード（別売り：1本）

ご注意

- テレビにS映像入力端子がないときは、S映像信号で画像を見ることはできません。テレビにS映像入力端子がないときは、黄色の映像コードを使って本機のVIDEO OUT端子とテレビの映像入力端子を接続してください。詳しくは15ページをご覧ください。テレビに付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- マルチチャンネルサラウンド方式で記録されたディスクの音声を、そのままMDデッキやDATデッキでデジタル録音することはできません。
- SACDの音声は、DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子からは出力されません。

> 光デジタル接続コードまたは同軸デジタル接続コードを使って接続しているときは、「オーディオ設定」の「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」に、「DTS」を「入」に、「48/96kHz PCM」を「96kHz/24bit」にしないでください。突然大音量が出て耳に悪影響を及ぼしたり、スピーカーを破損したりすることがあります。

設定をする

接続した機器に合わせて、本機の設定をします。
設定を変えるには、設定画面を使います。詳しくは52ページをご覧ください。

■ **DTSまたはドルビーデジタルデコーダーが内蔵されていないデジタルアンプにつないで音を出すときや、MDやDATなどのデジタル機器に出力するとき**

設定画面の「オーディオ設定」を次のように設定してください。これらは、お買い上げ時の設定です。

ご注意

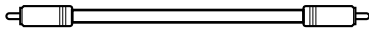
DIGITAL OUT端子からドルビーサラウンド（プロロジック）の効果音をかけていない信号を出力するときは、設定画面の「オーディオ設定」の「ダウンミックス」を「ノーマル」に設定してください。（61ページ）

5.1チャンネルサラウンドシステムをつなぐ

DTSまたはドルビーデジタルデコーダー内蔵のデジタル機器を本機につなぐと、DTSまたはドルビーデジタル方式で音声が記録されているDVDを、劇場やコンサートホールのような臨場感で楽しむことができます。サラウンド音声は、本機のDIGITAL OUT OPTICALまたはCOAXIAL端子から出力されます。
光デジタルまたは同軸デジタル端子のついたアンプと6個のスピーカー（フロント、リア、センター、サブウーファー）を使うと、ご家庭に居ながら、さらに高い再現性を楽しむことができます。

必要な接続コード

光デジタル接続コード*（別売り：1本）

75Ω同軸デジタル接続コード*（別売り：1本）

S映像コード（付属：1本）

* DIGIAL OUT OPTICALまたはCOAXIAL端子に接続するときは、オーディオ用光デジタル接続コード（別売り）またはオーディオ用同軸デジタル接続コード（別売り）を使ってください。両方を接続する必要はありません。詳しくは20ページをご覧ください。

> 電源コードは、アンプなどの電源スイッチに連動した電源コンセントにつながないでください。アンプの電源を切ったときに、プレイバックメモリーやディスクメモ、メニュー設定の内容が消去されることがあります。

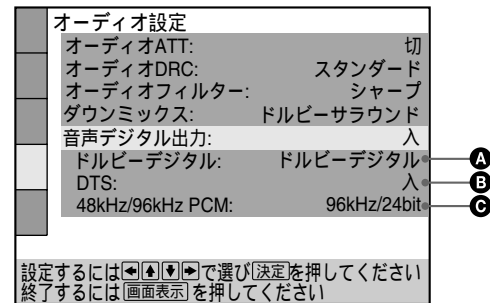
ご注意
- 電源を必ず切ってから接続してください。すべての接続が完了するまで、電源コードは接続しないでください。
- つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因となります。
- SACDの音声は、DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子からは出力されません。

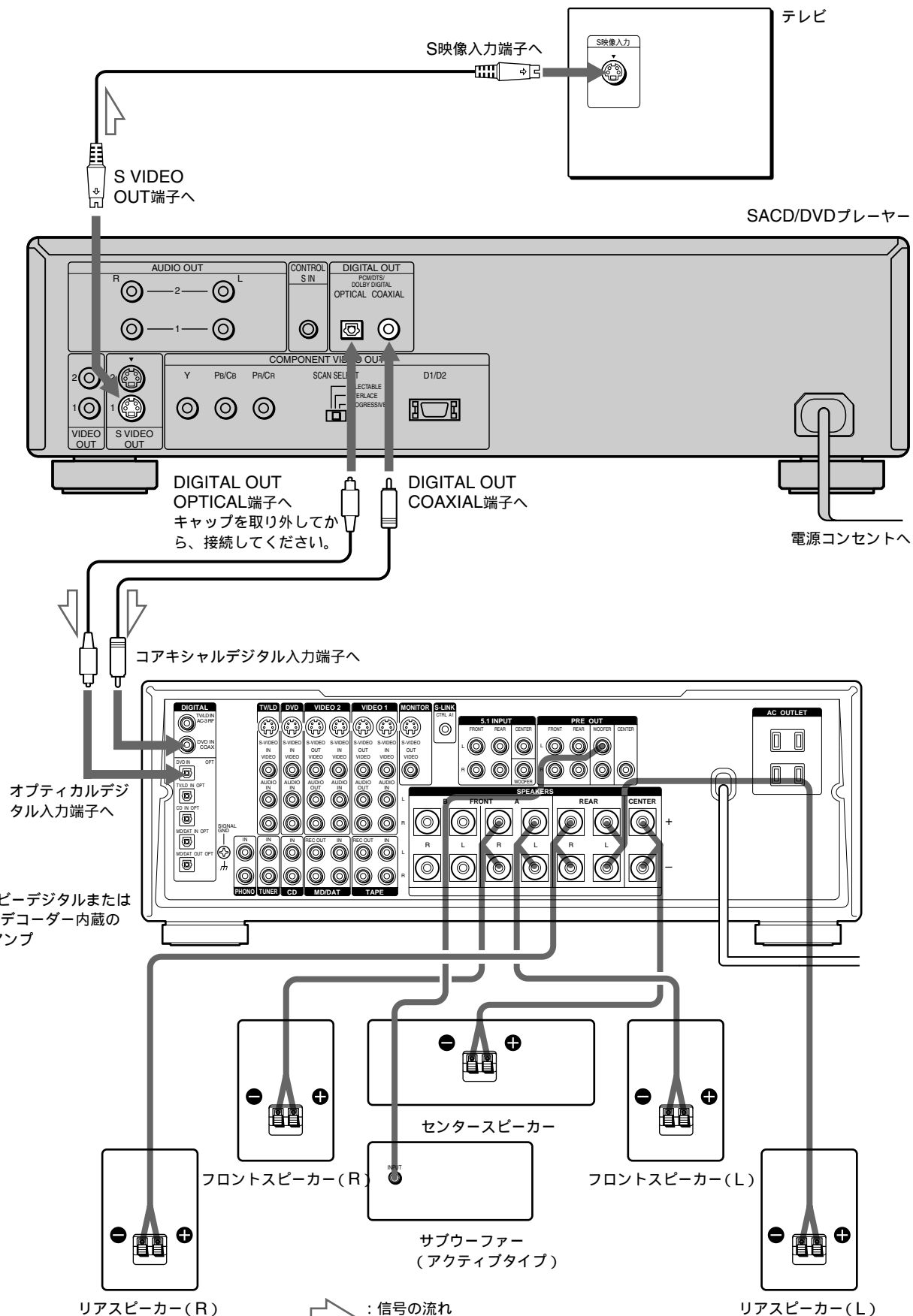
設定をする

接続した機器に合わせて、本機の設定をします。
設定を変えるには、設定画面を使います。詳しくは52ページをご覧ください。

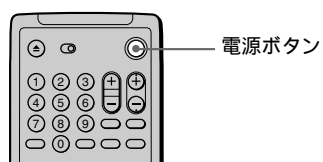
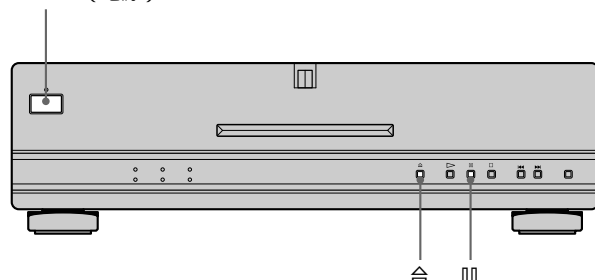
■ **ドルビーデジタルデコーダー内蔵のオーディオ機器と接続するとき Ⓐ**
設定画面の「オーディオ設定」の「音声デジタル出力」を「入」にして、「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」に設定してください（62ページ）。

■ **DTSデコーダー内蔵のオーディオ機器と接続するとき Ⓑ**
設定画面の「オーディオ設定」の「音声デジタル出力」を「入」にして、「DTS」を「入」に設定してください（62ページ）。

■ **96kHz/24bitに対応したオーディオ機器と接続するとき Ⓒ**
設定画面の「オーディオ設定」の「48kHz/96kHz PCM」を「96kHz/24bit」に設定してください（62ページ）。

ご注意
- **ドルビーデジタルデコーダー内蔵のオーディオ機器をつながないときは、「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」にしないでください。**
- **DTSデコーダー内蔵のオーディオ機器をつながないときは、「DTS」を「入」にしないでください。**
- **96kHz/24bitに対応したオーディオ機器をつながないときは、「48kHz/96kHz PCM」を「96kHz/24bit」にしないでください。**

5.1チャンネルサラウンドシステムをつなぐ

操作音を鳴らす（お知らせビープ）

次のような操作をしたときに、操作音を鳴らすことができます。
お買い上げ時は操作音が鳴らないように設定されています。

操作	操作音
電源を入れたとき	「ピッ」（1回）
電源を切ったとき	「ピピッ」（2回）
▷を押したとき	「ピッ」（1回）
❚❚を押したとき	「ピピッ」（2回）
再生が止まったとき	「ピーッ」（1回長く）
禁止されている操作を行なったとき	「ピピピッ」（3回）

1 **本体のPOWER（電源）スイッチを押したあと、リモコンの電源ボタンを押す。**
電源ランプが緑に点灯します。
ディスクがディスクトレイに入っているときは、⏏を押してディスクを取り除いたあと、もう一度⏏を押してディスクトレイを閉じてください。

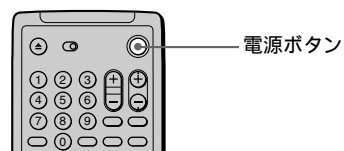
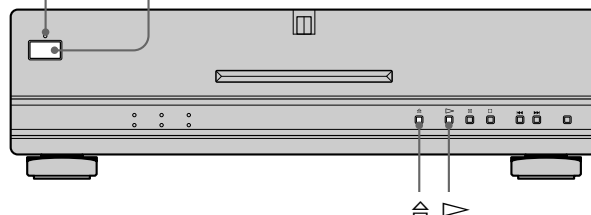
2 **本体の❚❚を2秒以上押す。**
「ピッ」と操作音が鳴って、お知らせビープ機能が設定されます。

お知らせビープ機能を解除するときは
ディスクが入っていないときに、本体の❚❚を2秒以上押します。「ピピッ」と操作音が鳴って、お知らせビープ機能が解除されます。

再生する

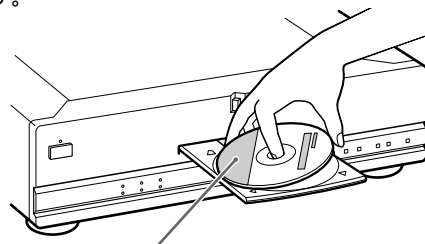
この章では、DVD、SACD/CD、VIDEO CDの再生のしかたを説明します。

ディスクを再生する

ディスクによっては、いくつかの操作が異なることや、禁止されていることがあります。再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

1 テレビの電源を入れる。
テレビの電源を入れ、本機の画像が映るようにテレビの入力を切り換えます。

アンプを使うときは
アンプの電源を入れ、本機の音声が出るようにアンプの入力を切り換えます。

2 本体のPOWER（電源）スイッチを押す。
本機はスタンバイモード（待機状態）になり、電源ランプが赤く点灯します。

3 本体の≜を押してディスクトレイを開けて、ディスクを置く。
本機は自動的に電源が入り、電源ランプが緑に点灯します。

4 ▷を押す。
ディスクトレイが閉まり、再生が始まります（ふつうの再生）。テレビまたはアンプで音量を調整します。

手順4の後に

■ DVDを再生しているとき
DVDによっては、タイトルメニューやDVDメニューが表示されることがあります。詳しくは27ページをご覧ください。

■ VIDEO CDを再生しているとき
ビデオCDによっては、テレビ画面にメニューが表示されることがあります。そのときは、表示されたメニュー画面（選択画面）にしたがって操作をして再生します（PBC再生）。PBC再生については、28ページをご覧ください。

電源を入れるときは

本体のPOWERスイッチを押します。本機はスタンバイモード（待機状態）になり、電源ランプが赤く点灯します。そのあと、リモコンの電源ボタンを押すと、電源が入り、電源ランプが緑に点灯します。スタンバイモードのときは、本機の⏏または▷を押しても電源が入ります。

電源を切るときは

リモコンの電源ボタンを押します。本機はスタンバイモードになり、電源ランプが赤く点灯します。電源を切るときは、本体のPOWERスイッチを押します。

CDのDTS音声を再生するときのご注意

- DTSデコーダー内蔵のオーディオ機器につないでいないときはCDのDTS音声を再生しないでください。「オーディオ設定」の「DTS」を「切」に設定していても、DTS音声が出て耳に悪影響を及ぼしたりスピーカーを破損したりします。
- CDのDTS音声を再生するときは、コントロールメニュー画面の「音声」を「ステレオ」に設定してください（38ページ）。「1/L」または「2/R」に設定していると、DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子から音が出ません。
- CDのDTS音声を再生するとき、AUDIO OUT端子から異音が出ることがあります。耳に悪影響を及ぼしたり、スピーカーを破損したりすることがないようご注意ください。

DVDのDTS音声を再生するときのご注意

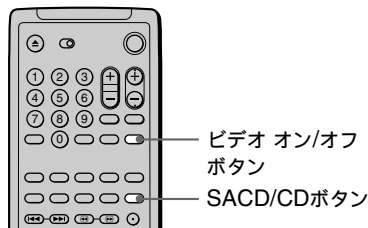
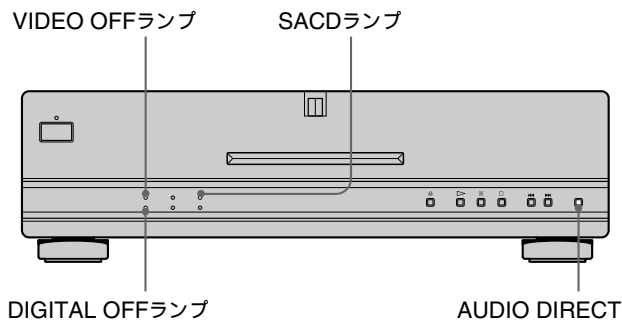
DTS音声信号はDIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子からのみ出力されます。AUIDO OUT端子からは出力されません。

- DTSデコーダーを内蔵していないオーディオ機器につないでいるときは、「オーディオ設定」の「DTS」を「入」にしないでください。「DTS」を「入」に設定すると、異音が出て耳に悪影響を及ぼしたりスピーカーを破損したりします。
- 「オーディオ設定」の「DTS」を「切」に設定していると、DVDのDTS音声を再生してもDIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子から音が出ません。

ご注意

- 停止中、または一時停止中、CD再生中に、15分以上本体またはリモコンを操作しないと、自動的にスクリーンセーバーが作動します。▷を押すとスクリーンセーバーが消えます。スクリーンセーバーについて詳しくは、56ページをご覧ください。
- ディスクを再生していないときに30分以上本機やリモコンを操作しないと自動的にスタンバイモード（待機状態）になります（オートパワーオフ機能）。
- 再生中に、本体のPOWERスイッチを押して、電源を切らないでください。メニュー設定が解除されることがあります。
  電源を切るときは、■を押して再生を停止させてから、リモコンの電源ボタンを押してください。電源ランプが赤く点灯して本機がスタンバイモード（待機状態）になったあと、本体のPOWERスイッチを押してください。

高音質で再生する

音声出力に影響を与える他の回路の動作を停止することで、SACDなどの音楽用CDや、96 kHz音声に対応したDVDをよりきれいな音声で再生できます。

音声出力に影響を与える他の回路の動作を停止するには、停止中に本体のAUDIO DIRECTボタンを押すか、リモコンのビデオ オン/オフボタン押します。

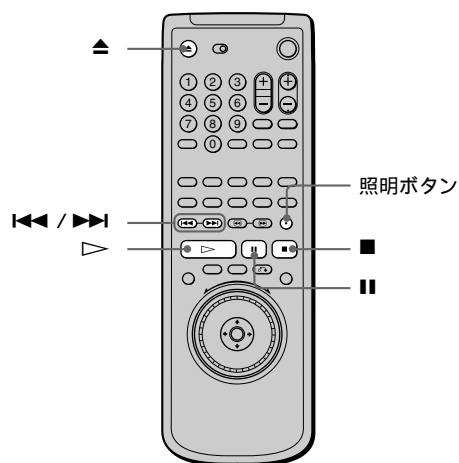
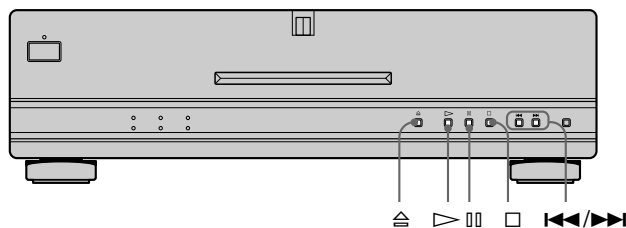
- **本体のAUDIO DIRECTボタンを押したとき**
  映像とデジタル音声が出力されなくなり、映像のデジタルおよびアナログ回路と音声のデジタル回路が、音声のアナログ回路に与える影響を抑えることができます。
  映像とデジタル音声が出力されていないときは、本体のVIDEO OFFランプとDIGITAL OFF ランプが点灯します。
- **リモコンのビデオ オン/オフボタンを押したとき**
  映像が出力されなくなり、映像のデジタルおよびアナログ回路が音声に与える影響を抑えることができます。
  映像が出力されていないときは、本体のVIDEO OFF ランプが点灯します。

SACDを再生しているときは

SACDを再生すると、本体のSACDランプが点灯します。SACDのハイブリッドディスク（10ページ）の場合、聞きたいレイヤーを選ぶには、停止中にリモコンのSACD/CDボタンを押します。CDレイヤーを再生中は、SACDランプは消えます。

ご注意

- 「オーディオ設定」で「音声デジタル出力」が「切」になっているときは、AUDIO DIRECTボタンでデジタル出力を「入」にすることはできません。
- SACDの音声は、DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子からは出力されません。

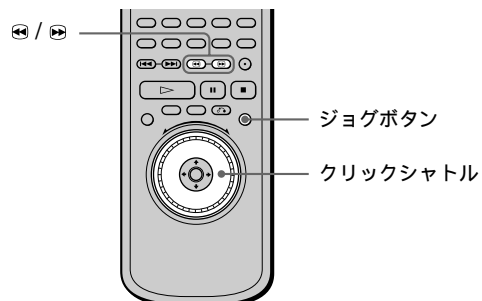
いろいろな操作方法

こんなときは	こうする
止める	■を押す。
途中で止める	IIを押す。
途中で止めたあと、つづきを再生する	IIまたは▷を押す。
再生中にチャプターや映像、曲を進める	▶▶Iを押す。
再生中にチャプターや映像、曲を戻す	I◀◀ を押す。
ディスクを取り出す	⏏を押す。

コントロールメニュー画面を使うと、プログラム再生などいろいろな再生が楽しめます。コントロールメニュー画面の操作については、31ページをご覧ください。

リモコンのボタンを点灯するには

リモコンの照明ボタンを押すと、▷およびII、■、画面表示ボタンが点灯します。リモコンで操作したあとしばらくすると、自動的に消えます。
リモコンの照明ボタンで点灯したままにすると、リモコンの電池の消耗を早めることがあります。

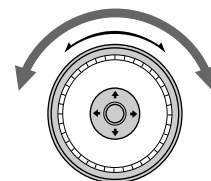
速さを変えて再生する/コマ送りする DVD VIDEO CD SACD CD

クリックシャトルとジョグボタンを使って、いろいろな速さで再生したりコマ送りすることができます。ジョグボタンを押すたびに、ジョグモードとシャトルモードが切り換わります。

速さを変えて再生する（シャトルモード）

クリックシャトルを回す。
回す向きと角度に応じて次のように再生の速さが変わります。

DVDを再生するとき

再生中

早送り2▶▶（通常の約30倍）
↕
早送り1▶▶（通常の約10倍）
↕
×2▶（約2倍速）
↕
再生▶（通常の再生）
↕
×2◀（逆方向：約2倍速）
↕
早戻し1◀◀（通常の約10倍）
↕
早戻し2◀◀（通常の約30倍）

すばやく回すと早送り2▶▶/早戻し2◀◀になります。

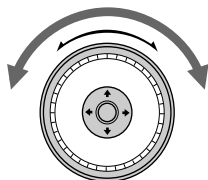
一時停止中

スロー1I▶
↕
スロー2I▶（スロー1より遅い）
↕
一時停止II
↕
スロー2◀I（逆方向：スロー1より遅い）
↕
スロー1◀I（逆方向）

SACD/CD/ビデオCDを再生するとき

再生中

早送り2▶▶（早送り1より速い）
↕
早送り1▶▶
↕
×2▶（約2倍速ーSACD/CDのみ）
↕
再生▶（通常の再生）
↕
早戻し1◀◀
↕
早戻し2◀◀（早戻し1より速い）

すばやく回すと早送り2▶▶/早戻し2◀◀になります。

一時停止中（ビデオ CDのみ）

スロー1▮▶
↕
スロー2▮▶（スロー1より遅い）
↕
一時停止❚❚

ふつうの再生に戻す

▷を押す。

ボタンを使って画像を探すには（サーチ）

⏪または⏩を押し続けます。再生の速さはクリックシャトルを使ったときの早戻し1◀◀または早送り1▶▶と同じです。ボタンから手を離すと、通常の再生に戻ります。

ご注意

DVD、ビデオCDによっては操作が禁止されている場合があります。

速さを変えてコマ送りする（ジョグモード）

1 ジョグボタンを押す。
ジョグモードではジョグボタンが点灯します。

2 クリックシャトルを回す。
クリックシャトルを回す速さに応じてクリックシャトルを回した方向でコマ送りされます。
ある程度以上一定の速さになると、スローまたはふつうの再生になります。

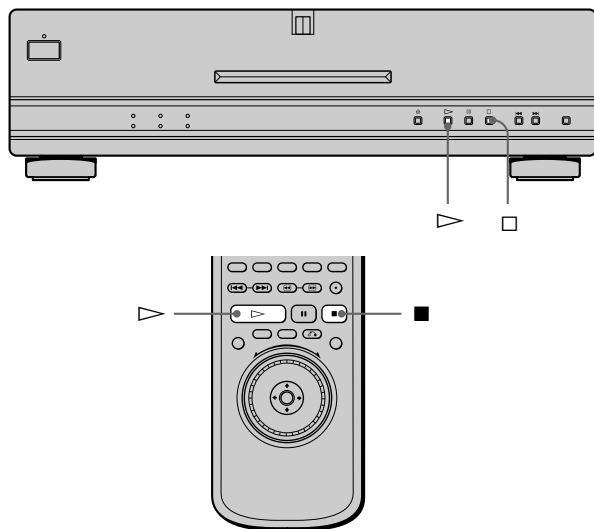
ふつうの再生に戻す

▷を押す。

ご注意

- ジョグボタンはすぐ隣のクリックシャトルがジョグモードのときだけ点灯します。
- ジョグボタンを押してからクリックシャトルに触れないで20秒たつと、シャトルモードに戻ります。

再生を止めたところから再生する（リジューム再生）DVD VIDEO CD SACD CD

再生を止めたあと、表示窓に「RESUME」が表示されると、本機に再生を止めたところが記録されます。このときは、そのつづきから再生できます。ディスクトレイを開けない限り、リジューム再生はリモコンの電源スイッチを押して本機がスタンバイモード（待機状態）になっても使えます。

1 ディスクの再生中、■を押して、再生を止める。
表示窓に「RESUME」と表示されます。また、テレビ画面には「次に再生するときは今のつづきから再生します 始めから再生するにはもういちど 停止 を押してください」と表示されます。
「RESUME」が表示されないときはリジューム再生はできません。

2 ▷を押す。
手順1で再生を止めたところから、再生が始まります。

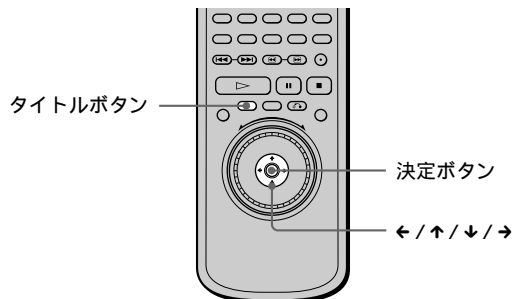
ディスクを最初から再生したいときは
停止中に再生時間が表示されているとき、■を押して再生時間表示を消してから、▷を押します。

ご注意
- DVDによってはリジューム再生ができない場合があります。
- シャッフルまたはプログラム再生では、リジューム再生はできません。
- 再生を止めたところによっては、リジューム再生の始まりがずれることがあります。
- 次の場合、再生を止めたところの記録は消えます。
  - ディスクトレイを開いたとき
  - 本体のPOWERスイッチを押して電源を切ったとき
  - プレイモードを変えたとき
  - タイトルやチャプター、トラックを選んでから、再生を始めたとき
  - 設定画面で設定を変更したとき

DVDのメニューを使う DVD

DVDには、タイトルメニューや、DVDメニューのようなDVD独自のメニューが記録されているものがあります。

タイトルメニューを使う

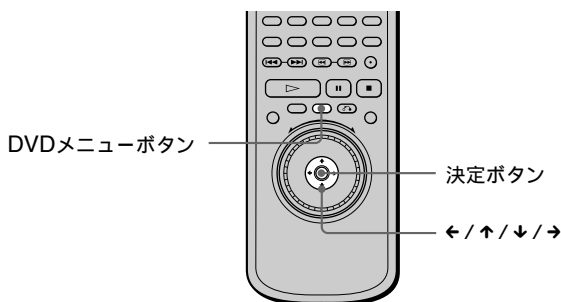
DVDには、複数の映像や曲が記録されたものがあります。これらの映像や曲をタイトルといいます。複数のタイトルがあるDVDを再生するときは、タイトルメニューで好きなタイトルを選べます。

1 タイトルボタンを押す。
タイトルメニューが表示されます。
タイトルの内容はディスクによって異なります。

2 再生したいタイトルを←/↑/↓/→で選ぶ。
DVDによってはリモコンの数字ボタンでタイトルを選べるものもあります。

3 決定ボタンを押す。
選んだタイトルの再生が始まります。

ご注意
- DVDによってはタイトルを選ぶことが禁止されている場合があります。
- DVDによっては「タイトルメニュー」のことを「メニュー」または「タイトル」と表示するものがあります。また決定ボタンを押すことを、「選択ボタンを押す」と表示するものがあります。

DVDメニューを使う

DVDには、ディスクの内容をメニューで選択できるものがあります。このようなDVDを再生するときは、再生したい項目、表示したい字幕の言語、聞きたい音声の言語などをDVDメニューで選べます。

1 DVDメニューボタンを押す。
DVDメニューが表示されます。DVDメニューはDVDにより異なります。

2 選びたい項目を←／↑／↓／→で選ぶ。
DVDによってはリモコンの数字ボタンで項目を選べるものもあります。

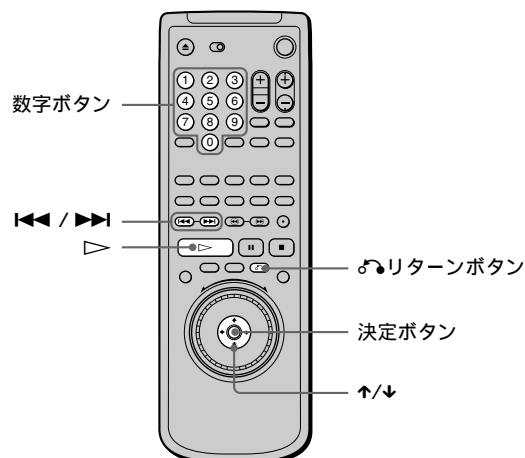
3 別の項目に変更したいときは、手順2を繰り返す。

4 決定ボタンを押す。

DVDメニューで表示される言語を変えるときは
設定画面の「言語設定」の「DVDメニュー言語」で変更できます。詳しくは55ページをご覧ください。

ご注意
DVDによっては「DVDメニュー」のことを「メニュー」と表示するものがあります。

プレイバックコントロール機能を使う（PBC再生） VIDEO CD

PBC対応ビデオCD（バージョン2.0）では、PBC（プレイバックコントロール）機能を使って、対話型の操作や検索などができます。
PBC再生とは、テレビ画面に表示される選択用のメニューにしたがって、再生を進めていくことです。
PBC再生で使うボタンは、数字ボタンおよび決定、⏮、⏭、↑／↓、リターンです。

1 「ディスクを再生する」（22ページ）の手順1から手順4を行って、PBC対応ビデオCDの再生を始める。

2 選択用のメニュー画面の中で行いたい（再生したい）項目の番号を選ぶ。
↑／↓ボタンで項目の番号を選びます。リモコンの数字ボタンで項目の番号を選ぶこともできます。

3 決定ボタンを押す。

4 テレビ画面に表示される選択用のメニュー画面などにしたがって、操作する。
操作の方法はビデオCDによって異なることがありますので、ビデオCDに付属の説明書もあわせてご覧ください。

選択用のメニュー画面に戻るには

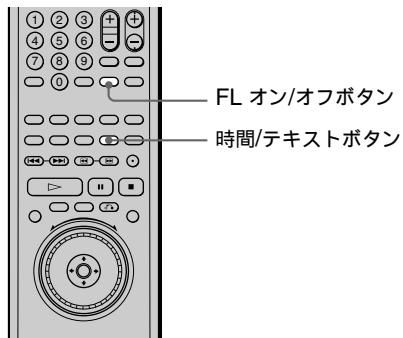
リターンまたは⏮、⏭ボタンを押す。

PBC機能を使わないで再生するときは
次の2つの方法があります。

- 停止中、⏮または⏭を押して再生したいトラックを選んでから、▷または決定ボタンを押す。
- 停止中、リモコンの数字ボタンで再生したいトラック番号を押してから、▷または決定ボタンを押す。
  画面上に「PBCを切って再生します」が表示され、ふつうの再生（トラック番号順に再生）が始まります。このとき、選択用のメニューなどの静止画は再生できません。PBC再生に戻すには、■を押して再生を止めたあと、もう1度■を押してから▷を押して再生を始めます。

ご注意
ビデオCDによっては手順3で決定ボタンを押すことを「選択ボタンを押す」と表示するものがあります。そのときは、▷を押してください。

表示窓の見かた DVD

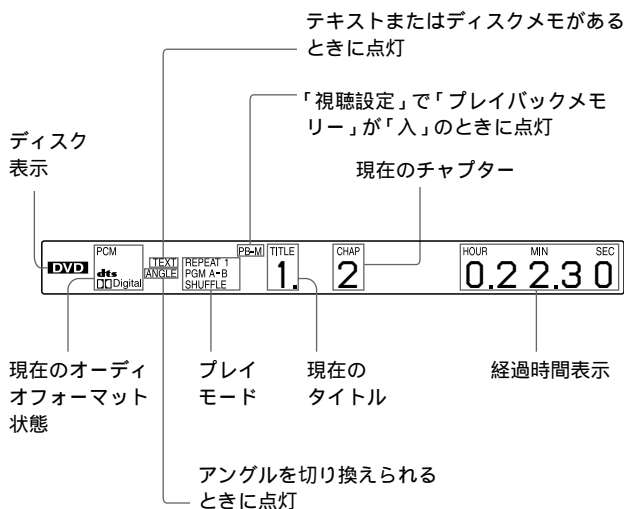
表示窓を使って、ディスクの残り時間や、DVD内の全タイトル数、SACD/CD/ビデオCDの全トラック数などを調べることができます。また、リモコンで表示窓の点灯／消灯を切り換えることもできます。

表示窓を点灯/消灯する

リモコンを使って、表示窓を表示したり消したりできます。
FL オン/オフ ボタンを押すたびに、点灯と消灯が切り換わります。
表示窓を消灯しているときは、本体のFL OFFランプが点灯します。

表示窓の明るさを調整できます
「視聴設定」の「表示窓の明るさ」で、表示窓の明るさを調整したり、自動的に暗くしたりするように設定できます（58ページ）。

ご注意
「視聴設定」の「表示窓の明るさ」で「消」を選んでいるときは、FL オン/オフボタンは働きません。

DVDを再生中のとき DVD

再生中の表示窓

再生の残り時間を調べる

再生中、リモコンの時間／テキストボタンを押す。
時間/テキストボタンを押すたびに、表示が次のように切り換わります。

再生中のチャプター番号と経過時間

DVD TEXT TITLE 1. CHAP 2 HOUR MIN SEC 0.22.30

↓ **時間／テキストボタンを押す**

再生中のチャプターの残り時間

DVD TEXT TITLE 1. CHAP 2 HOUR MIN SEC −0.13.20

↓ **時間／テキストボタンを押す**

再生中のタイトル番号と経過時間

DVD TEXT TITLE 1 HOUR MIN SEC 1.03.24

↓ **時間／テキストボタンを押す**

再生中のタイトルの残り時間

DVD TEXT TITLE 1 HOUR MIN SEC −1.15.36

↓ **時間／テキストボタンを押す**

テキストまたはディスクメモ

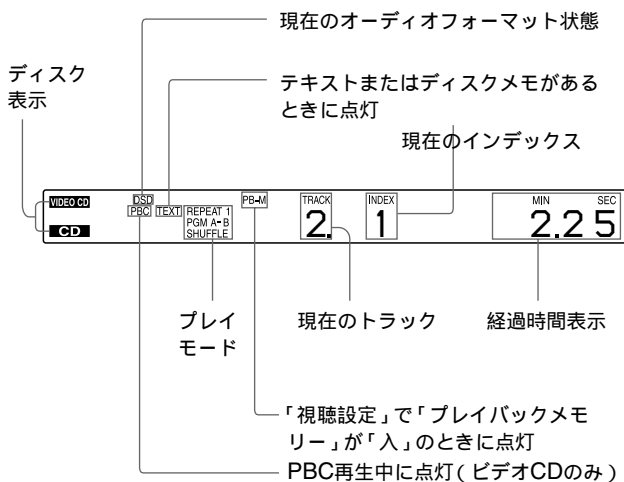
DVD TEXT SONY HITS/5

時間／テキストボタンを押す

ご注意
- DVDによってはチャプター番号や時間が表示されない場合や、表示窓の表示を変えられない場合があります。
- シャッフル再生またはプログラム再生をしているときは、タイトル経過時間、タイトルの残り時間は表示されません。

SACD/CD/ビデオCDを再生中のとき

VIDEO CD　SACD CD

再生中の表示窓

ビデオCDでPBC再生しているときは

トラック番号、インデックス番号の代わりに再生中のシーン番号が表示されます。このとき時間／テキストボタンを押しても表示は変わりません。

ディスクにCDテキストが記録されていれば、時間／テキストボタンを押したときにCDテキストが表示窓に表示されます。CDテキストについて詳しくは、36ページをご覧ください。

再生の残り時間を調べる

再生中、時間／テキストボタンを押す。

時間／テキストボタンを押すたびに、表示が次のように切り換わります。

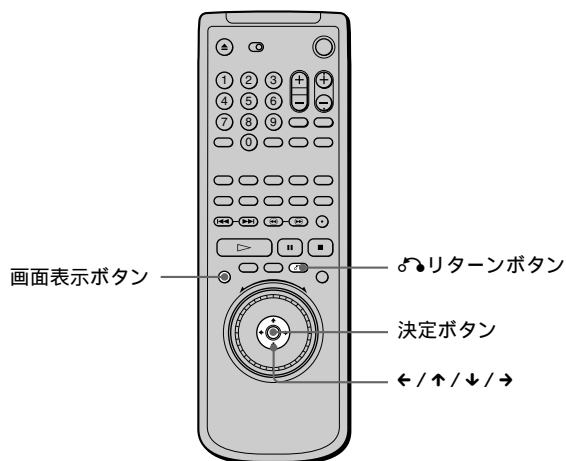
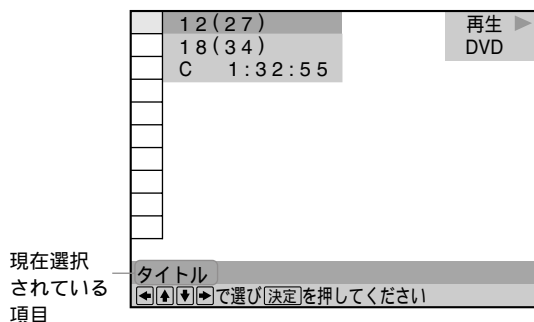
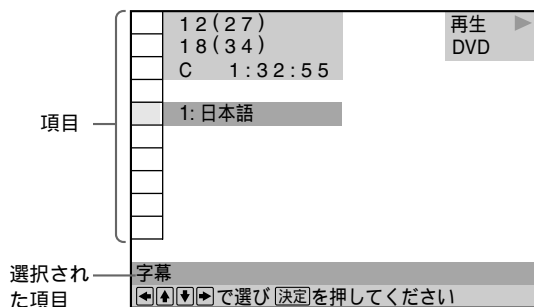
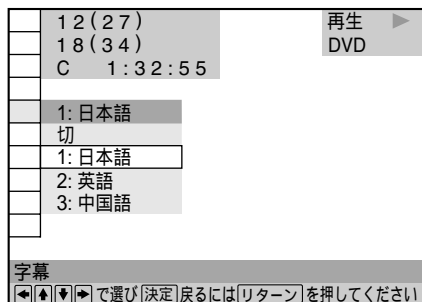
ご注意

シャッフル再生またはプログラム再生をしているときは、ディスク経過時間、ディスク全体の残り時間は表示されません。

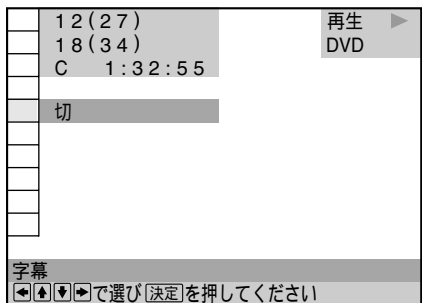
コントロールメニューでいろいろな機能を使う

ここではコントロールメニュー画面を使ったいろいろな再生のしかたや、便利な機能の使いかたを説明します。

コントロールメニューを使う

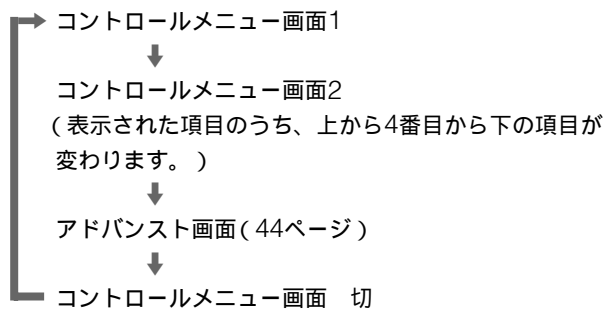
コントロールメニュー画面を使って映像や曲を探したり、好みの順で再生したり、アングルを変えたり、ビデオコントロールの設定をしたりできます。
ディスクによって操作できる機能が異なります。コントロールメニューのそれぞれの項目について詳しくは、33〜51ページをご覧ください。

1 画面表示ボタンを押す。
コントロールメニュー画面が出ます。

2 ↑／↓ボタンを押して、希望の項目を選ぶ。

3 決定ボタンを押す。

4 ↑/↓ボタンを押して、希望の項目を選ぶ。

5 決定ボタンを押す。

途中でやめるには

リターンボタンを押します。

他の項目を表示するには

画面表示ボタンを押すたびに、コントロールメニュー画面は次のように切り換わります。

コントロールメニュー画面の項目は、使用するディスクにより異なります。

直接選べる項目もあります

いくつかの項目は、リモコンのボタンを押して、直接選ぶことができます。この場合、選んだ項目だけが表示されます。リモコンを使った操作については、それぞれの項目の説明をご覧ください。

ご注意

コントロールメニュー画面の項目には、項目を選ぶ以外の操作が必要なものもあります。このような項目について詳しくは、次ページからの説明をご覧ください。

コントロールメニュー画面項目一覧

タイトル（DVDのみ）（34ページ）／

シーン（PBC再生時のビデオCDのみ）（34ページ／

トラック（ビデオCDのみ）（34ページ）

チャプター（DVDのみ）（34ページ）／

インデックス（ビデオCDのみ）（34ページ）

トラック（SACD/CDのみ）（34ページ）

インデックス（SACD/CDのみ）（34ページ）

タイトル、チャプター、トラック、インデックス、シーンを選んで映像や曲を探すことができます。

時間／メモ（35、36、37ページ）

時間／テキスト（35、36、37ページ）

再生中のタイトル、チャプター、トラックおよびディスク全体の経過時間および残り時間を調べることができます。
タイムコードを入力して映像や曲を探すことができます。
ディスクに記録されたDVDテキストやSACDテキスト、CDテキストを表示窓やテレビ画面で見ることができます。ビデオCDやDVDテキスト、CDテキストが記録されていないディスクには、ディスクメモを記録することができます。

音声（38ページ）

DVDの中には、複数の言語（マルチランゲージ）で音声が記録されているものがあります。このようなDVDでは、再生中に好きな言語の音声に切り換えられます。また、音声が複数の記録方式（PCMまたはドルビーデジタル、DTS）で記録されているDVDでは、再生中に音声記録方式を選ぶことができます。CDまたはビデオCDでは 、左右どちらかのチャンネルの音を選び、左右両方のスピーカーからその選んだ音を聞くことができます。

字幕（DVDのみ）（39ページ）

DVDの中には、字幕が記録されているものがあります。この字幕は、再生中の好きなときに表示したり消したりできます。またDVDに複数の言語で字幕が記録されているときは、再生中の好きなときに切り換えられます。

アングル（DVDのみ）（40ページ）

DVDの中には、同じ場面が複数のアングルで記録されているもの（マルチアングル）があります。このようなDVDでは、再生中、複数のアングルが記録されている部分であれば好きなアングルに切り換えながら見ることができます。

ビデオコントロール（41ページ）（DVD/ビデオCDのみ）

再生するときの画質を調整して、設定の組み合わせを5種類まで登録しておくことができます。DVDのジャンルに合わせて好みの画質設定をしておきたいときなどに便利です。
また、本機はディスクを再生するときに設定した画質を、ディスクごとに300枚まで記憶しておくことができます（プレイバックメモリー機能）。その記憶された設定を優先して呼び出すようにすることもできます。

アドバンスト（DVDのみ）（44ページ）

ビットレートや再生中のディスクが読んでいる位置（レイヤー）についての情報を見ることができます。

カスタム視聴制限（45ページ）

暗証番号を登録することにより、ディスクごとに本機での再生を禁止することができます。
視聴年齢制限（59ページ）とカスタム視聴制限は同じ暗証番号を使います。

設定（52ページ）

設定画面を使って、初期設定や画質や音質の調整、さまざまな出力の設定などができます。また DVD を再生するときの、字幕の言語やメニューの表示言語、視聴年齢制限の設定などもできます。設定画面の項目の詳しい内容は54〜64ページをご覧ください。

プログラム（47ページ）

タイトルやチャプター、トラックを選んで好きな順に再生できます。

シャッフル（49ページ）

ディスク上のタイトル番号やトラック番号に関係なく、本機がランダム（無作為）に順番を選んで、ひと通り再生します。再生する順番は、選ぶたびに変わります。

リピート（50ページ）

ディスク全体（全タイトル／全トラック）または1つのタイトル／チャプター／トラックだけを繰り返し再生できます。

A-Bリピート（51ページ）

再生したい部分を指定して、繰り返し再生できます。

再生するタイトル／チャプター／トラック／インデックス／シーンを選ぶ DVD VIDEO CD SACD CD

タイトルまたはチャプター、トラック、インデックス、シーンを選んで映像や曲を探すことができます。

画面表示ボタンを押したあと、「タイトル」または「チャプター」、「トラック」、「インデックス」、「シーン」を選びます。
DVDを再生しているときは、「タイトル」と「チャプター」が表示されます。
ビデオCD/SACD/CDを再生しているときは、「トラック」と「インデックス」が表示されます。ビデオCDでPBC再生をしているときは、「シーン」が表示されます。

1 ↑／↓で「タイトル」または「チャプター」、「トラック」、「インデックス」、「シーン」を選ぶ。
「＊＊（＊＊）」が選ばれます（＊＊は任意の数字）。カッコ内の数字はタイトルまたはチャプター、トラック、インデックス、シーンの総数です。

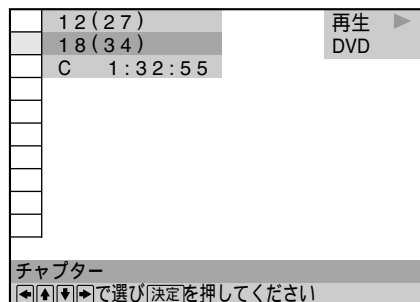
2 →または決定ボタンを押す。
「＊＊（＊＊）」が「－－（＊＊）」に変わります。

3 数字ボタンまたは↑/↓で、タイトルまたはチャプター、トラック、インデックス、シーンの数字を選んで、決定ボタンを押す。
選んだ場所の再生が始まります。入力した数字を訂正するときは決定ボタンを押す前にクリアボタンを押してください。

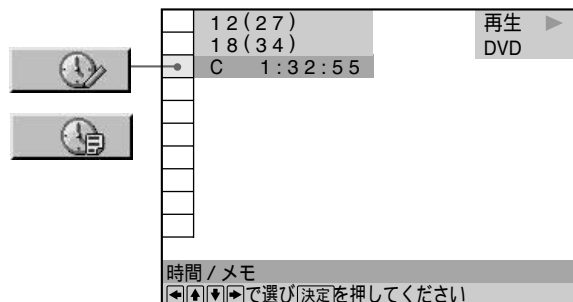
選択を途中でやめるには

リターンボタンを押します。

ご注意

- 表示されるタイトル、チャプター、トラックの数字はディスクに記録されているタイトル、チャプター、トラックの数字です。
- ビデオCDのPBC再生中はインデックスの数字は表示されません。

経過時間と残り時間を見る

再生中のタイトル、チャプター、トラックの経過時間と残り時間、ディスク全体の経過時間と残り時間を見られます。

画面表示ボタンを押します。そのあと、リモコンの時間／テキストボタンを押して、時間表示を切り換えます。
DVDテキストやCDテキストを見ることもできます
（36ページ）。

DVDを再生中

■ 時間/メモまたは時間/テキスト

- C　∗∗：∗∗：∗∗：再生中のチャプターの経過時間
- C−∗∗：∗∗：∗∗：再生中のチャプターの残り時間
- T　∗∗：∗∗：∗∗：再生中のタイトルの経過時間
- T−∗∗：∗∗：∗∗：再生中のタイトルの残り時間

ビデオCDをPBC再生中

■ 時間/メモ

- ∗∗：∗∗：再生中のシーンの経過時間

ビデオCD（PBC再生中を除く）またはSACD/CDを再生中

■ 時間/メモまたは時間/テキスト

- T　∗∗：∗∗：再生中のトラックの経過時間
- T−∗∗：∗∗：再生中のトラックの残り時間
- D　∗∗：∗∗：再生中のディスクの経過時間
- D−∗∗：∗∗：再生中のディスクの残り時間

「時間/メモ」または「時間/テキスト」を直接選べます

リモコンの時間／テキストボタンを押します。ボタンを押すたびに時間表示が変わります。

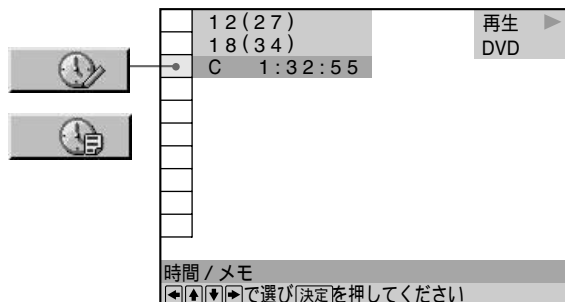
ご注意

再生の状態によって、表示される時間は変わります。

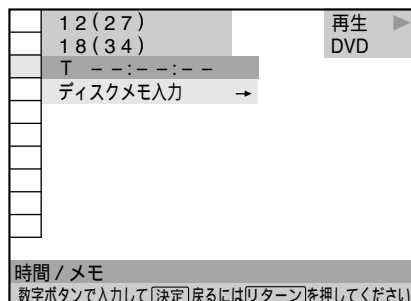
タイムコードを使って場面を探す

DVD

タイムコードを入力して場面を探すことができます。

画面表示ボタンを押したあと、「時間/メモ」または「時間/テキスト」を選びます。
タイムコードはおよそ実際の経過時間に対応しています。
例えば、始まりから2時間10分20秒過ぎた場面を探すには2:10:20と入力します。

1 DVDを再生中に「C ∗∗：∗∗：∗∗」（再生中のチャプターの経過時間）を選ぶ。

2 → または決定ボタンを押す。

タイムコードが「T −−：−−：−−」に変わる。

3 数字ボタンを使ってタイムコードを入力し、決定ボタンを押す。

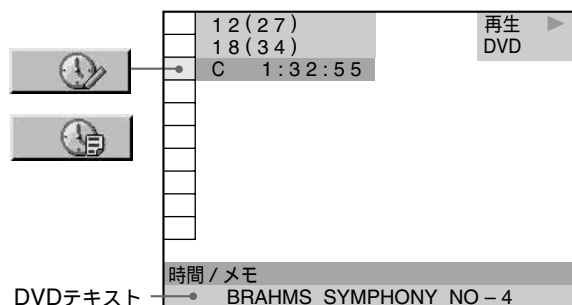
選んだ場所の再生が始まります。
入力した数字を訂正するときは決定ボタンを押す前にクリアボタンを押してください。

入力を途中でやめるには
リターンボタンを押します。

ご注意
タイムコードを入力するときは、タイトルの経過時間を入力してください。

ディスクに名前をつける

ビデオCDやDVDテキスト、SACDテキスト、CDテキストが記録されていないディスクには、ディスクに名前をつけることができます。
また、ディスクに記録されたDVDテキストやSACD／CDテキストを表示窓やテレビ画面で見ることができます。

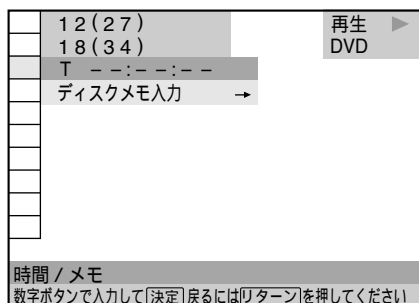
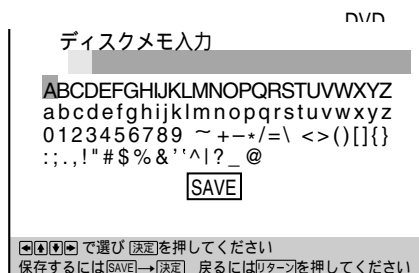
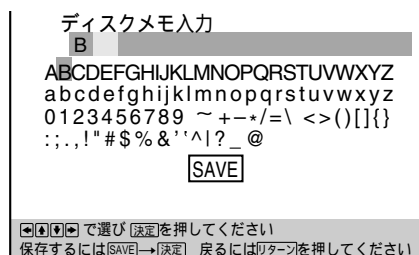
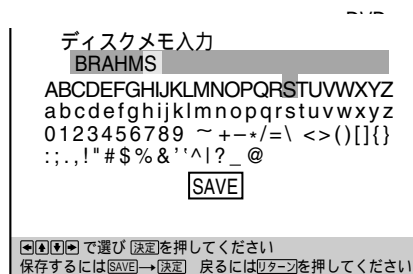
画面表示ボタンを押します。「時間／メモ」が表示されます。ディスクメモが表示されるまでリモコンの時間／テキストボタンを押します。ディスクに名前がつけられていないときは、「NO TEXT」と表示されます。以下の手順にしたがってディスクに名前をつけてください。
DVDテキストまたはSACD／CDテキストが記録されたディスクのときは、「時間／テキスト」が表示されます。DVDテキストやSACD／CDテキストが表示されるまでリモコンの時間／テキストボタンを押します。テキストは書き換えることはできません。
情報はテレビ画面の一番下に表示されます。

「時間/メモ」または「時間/テキスト」を直接選べます
リモコンの時間／テキストボタンを押します。DVDまたはSACD／CDテキストやディスクメモの情報を表示するには、情報が表示されるまで繰り返し時間／テキストボタンを押します。

DVDまたはSACD／CDテキストやディスクメモの全情報を見られます
表示窓に、DVDまたはSACD／CDテキストやディスクメモがスクロールして表示されます。

ご注意
本機では、DVDまたはSACD／CDテキストの先頭の情報（タイトルなど）のみを表示します。

ディスクに名前をつける（ディスクメモ）

テキストが記録されていないディスクであれば、ディスクに名前をつけることができます。ディスクメモはそれぞれのディスクに20文字まで入力できます。
記録したディスクメモはディスクを取り出しても記録されています。ディスクメモは、タイトルや、ミュージシャンの名前、カテゴリー、購入日時など好きなものを記録できます。

1 「時間／メモ」を選び、決定ボタンを押す。
「ディスクメモ入力 →」が表示されます。

2 「ディスクメモ入力 →」を選び、決定ボタンを押す。
ディスクメモ入力画面が表示されます。

3 ←/↑/↓/→を押すか、クリックシャトルを回して文字を選ぶ。
選んだ文字の色が変わります。

4 決定ボタンを押す。

5 手順3と4を繰り返して文字を入力する。

6 すべての文字を入力したら、←/↑/↓/→を押して SAVE を選び、決定ボタンを押す。
ディスクメモが記録されます。

文字を修正するには

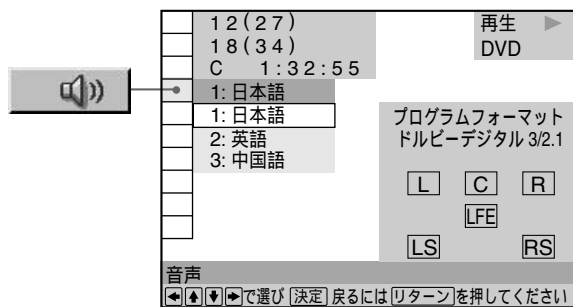
- 文字を消すには
  1. ⏮/⏭を押して、消したい文字にカーソルをあわせる。
  2. クリアボタンを押す。
- 文字を挿入したり上書きするには
  1. ⏮/⏭を押して、修正したい文字にカーソルをあわせる。
  2. ←/↑/↓/→を押すか、クリックシャトルを回して文字を選ぶ。
  3. 文字を挿入するには、決定ボタンを押す。
     文字を上書きするには、決定ボタンを押さずに、⏮/⏭を押してカーソルを動かす。

ご注意

- 本体のPOWERスイッチを押して電源を切ると、設定が解除される場合があります。電源を切るときは、■を押して再生を止めてからリモコンの電源ボタンを押してください。電源ランプが赤く点灯し、スタンバイモード（待機状態）になったら、本体のPOWERスイッチを押してください。
- ディスク300枚までディスクメモを記録することができます。300枚を超えると、古いディスクから上書きされます。

音声を切り換える   CD

DVDに、複数の言語（マルチランゲージ）で音声が記録されているときは、再生中に好きな言語の音声に切り換えられます。また、複数の音声記録方式（PCMまたはドルビーデジタル、DTS）が記録されているDVDでは、再生中に音声記録方式を選ぶことができます。
複数の音声トラックが記録されたCDまたはビデオCDでは、左右どちらかのチャンネルの音を選び、左右両方のスピーカーから選んだ音を聞くことができます。このときの音声はモノラルになります。例えばカラオケのビデオCDなどでは、音声チャンネルを切り換えることで、ボーカルのトラックを消し、伴奏だけを楽しめるものもあります。

画面表示ボタンを押したあと、「音声」を選びます。

■ 音声

DVDを再生中

言語を選びます。選べる言語はDVDによって異なります。4桁の数字が表示されたときは、言語コードを意味しています。「言語コード一覧表」（74ページ）を参照して選んでください。同じ言語が2個以上あるときは、音声記録方式（チャンネル数など）が異なります。現在選ばれている音声記録方式は、「プログラムフォーマット」に表示されます。

ビデオCDまたはCDを再生中

お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

- ステレオ：通常のステレオ再生
- 1/L：左チャンネルの音（モノラル）
- 2/R：右チャンネルの音（モノラル）

「音声」を直接選べます

リモコンの音声ボタンを押します。ボタンを押すたびに項目が変わります。

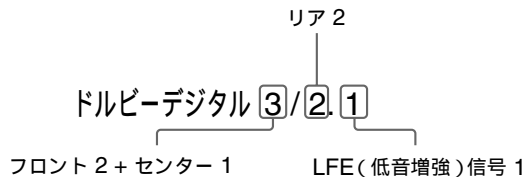
ご注意

- DVDによっては複数の言語が記録されていても、切り換えが禁止されている場合があります。
- CD/ビデオCDでは、次の場合に通常のステレオ再生に戻ります。
  - ディスクトレイを開いたとき
  - リモコンの電源ボタンを押して本機がスタンバイモード（待機状態）になったとき
  - 本体のPOWERスイッチを押して電源を切ったとき
- DVD再生中、自動的に音声が切り換わることがあります。
- SACDでは、音声の切り換えはできません。
- 「オーディオ設定」で「DTS」が「切」になっていると、ディスクにDTSの音声が記録されていても、画面に表示されません。

再生しているチャンネルを表示する DVD

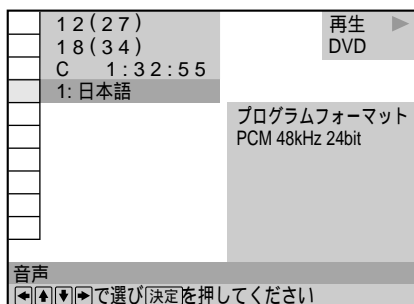
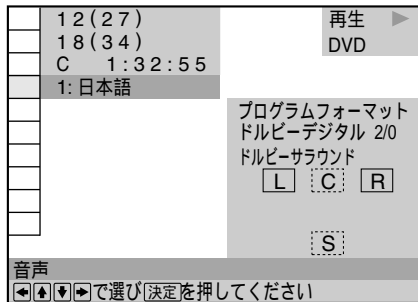
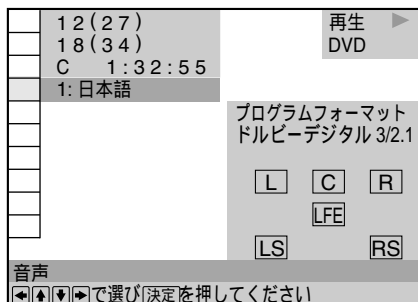
「音声」を選ぶと、現在再生中のDVDに記録されているチャンネル数を表示することができます。
例えば、ドルビーデジタル方式では、モノラルから5.1chまでの信号がDVDに記録できます。記録されているチャンネル数はDVDにより異なります。

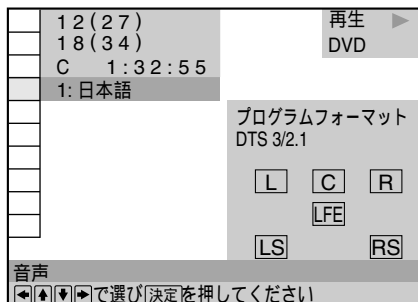
*「PCM」または「DTS」、「ドルビーデジタル」が表示されます。「ドルビーデジタル」のときは音声の含まれるチャンネルが下記のように数字で表示されます。

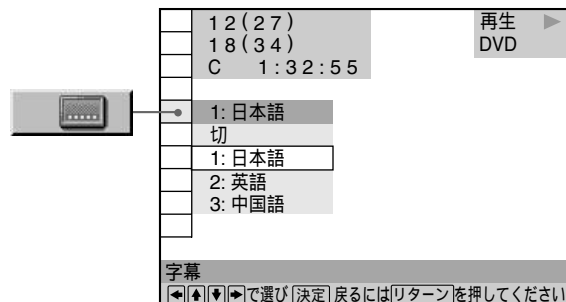
ドルビーデジタル5.1chの場合：

**各記号は次のチャンネルを表しています。

L：　フロント（左）
R：　フロント（右）
C：　センター（モノラル）
LS：　リア（左）
RS：　リア（右）
S：　リア（モノラル）：ドルビーサラウンド処理された2ch信号、またはドルビーサラウンドのリア成分
LFE：LFE（Low Frequency Effect: 低音増強）信号

画面表示の例

- PCM（ステレオ）のとき

• ドルビーサラウンドのとき

• ドルビーデジタル5.1チャンネルのとき
LFE（低音増強）信号出力の有無にかかわらず、「LFE」が実線で表示されます。

• DTSのとき
LFE（低音増強）信号出力の有無にかかわらず、「LFE」が実線で表示されます。

字幕を表示する DVD

DVDの中には、字幕が記録されているものがあります。
字幕は再生中であれば、好きなときに表示したり消したりできます。また、DVDに複数の言語で字幕が記録されているときは、再生中の好きなときに切り換えられます。例えば、字幕を表示して、語学の学習に役立てたりすることができます。

画面表示ボタンを押したあと、「字幕」を選びます。

■ **字幕**

言語を選びます。選べる言語はDVDによって異なります。4桁の数字が表示されたときは言語コードを意味しています。「言語コード一覧表」（74ページ）を参照して選んでください。

「字幕」を直接選べます

リモコンの字幕ボタンを押します。ボタンを押すたびに項目が切り換わります。

ご注意

- 字幕が記録されていないディスクでは、字幕を表示することはできません。
- DVDによっては字幕が記録されていても、字幕表示を禁止している場合があります。
- DVDによっては、字幕を消すことを禁止している場合があります。
- 記録されている字幕の言語の種類や数はDVDによって異なります。
- DVDによっては複数の字幕が記録されていても、切り換えを禁止している場合があります。
- DVD再生中、自動的に字幕が切り換わることがあります。

アングルを切り換える DVD

DVDの中には、同じ場面が複数のアングルで記録されているもの（マルチアングル）があります。このようなDVDでは、再生中、複数のアングルが記録されている部分で好きなアングルに切り換えながら見ることができます。
例えば、動いている電車のシーンの再生中に、電車の正面から見ていた景色を、左の窓や右の窓からの景色に、電車の動きを止めることなく切り換えて見ることができます。

画面表示ボタンを押したあと、「アングル」を選びます。アングルを変えられるときはアングル表示が緑に点灯します。

1 「アングル」を選ぶ。

2 → を押す。

アングル番号が「－」に変わります。カッコ内の数字はアングルの総数を示します。

3 数字ボタンまたは↑／↓を使ってアングル番号を選び、決定ボタンを押す。

選んだアングルに切り換わります。

「アングル」を直接選べます

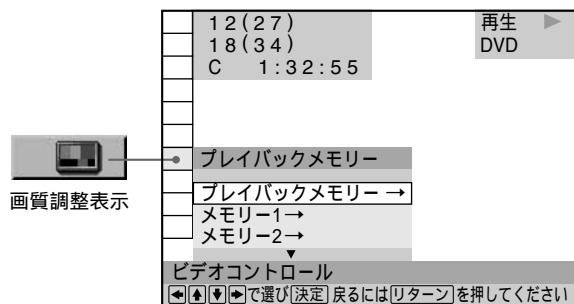
リモコンのアングルボタンを押します。ボタンを押すたびにアングルが切り換わります。

ご注意

- 切り換えられるアングルの数は、DVDによっても、場面によっても異なります。DVDのその場面に記録されているアングルの数だけ切り換えることができます。
- DVDによっては複数のアングルが記録されていても、切り換えを禁止している場合があります。

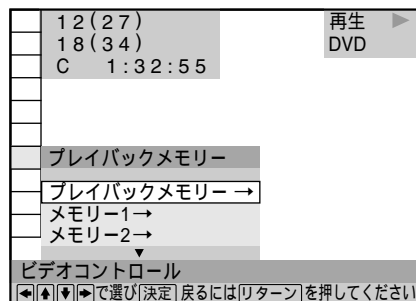
画質を調整する（ビデオコントロール）

部屋の明るさや映像の内容に合わせた画質設定を選べます。また、ノイズリダクションを設定して動画再生中の静止部分に現れるチラチラしたノイズを低減したり、映像をガンマ補正して白つぶれや黒つぶれを低減したりすることもできます。
調整した設定項目のセットは、「メモリー1〜5」の5種類まで登録しておくことができるので、DVDのジャンルごとに基準となる画質を設定しておきたいときなどに便利です。
なお、設定した画質はプレイバックメモリーとして、各ディスクごとに300枚まで本機に記憶させておくことができます。プレイバックメモリーについて詳しくは、58ページをご覧ください。

画面表示ボタンを押したあと、「ビデオコントロール」を選びます。

■ ビデオコントロール

- プレイバックメモリー→
  ディスクごとに設定したビデオコントロールの内容で再生します。「視聴設定」で「プレイバックメモリー」が「入」のときだけ表示されます。（58ページ）
- メモリー1〜5→
  本機に登録しておいたメモリー1〜5までの設定から、好みの設定を選んで再生します。登録の方法は、次の「画質を項目ごとに調整する」をご覧ください。

画質設定を選んで再生する

1 ↑/↓で「ビデオコントロール」を選んで、決定ボタンを押す。

2 再生時に使いたい設定を↑/↓で選んで、決定ボタンを押す。
ビデオコントロール画面が表示されます。

3 設定を確認して、リターンボタンを押す。
選んだ画質設定で再生されます。

選んだ画質設定をもとに、さらに調整して再生できます
手順2でビデオコントロール画面が表示されたとき、↑/↓で項目を選んで決定ボタンを押すと、選んだ画質設定を基準にして調整値を修正できます。
「プレイバックメモリー→」または「メモリー1〜5→」のどの設定を選んでいても、調整後の画質設定はプレイバックメモリーに記憶されます。「メモリー1〜5→」を選んでから調整しても、すでに登録されているメモリー1〜5の設定内容は変わりません。

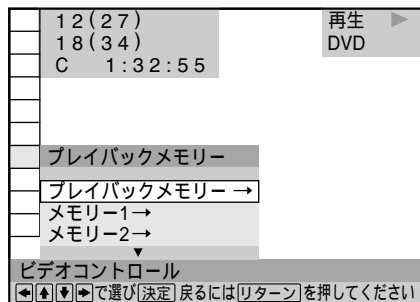
ご注意

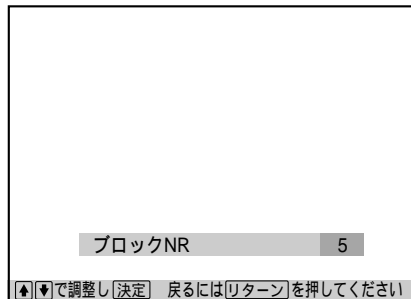
- 「メモリー1〜5→」のいずれかを選んで再生している場合に、プレイバックメモリーの設定内容を変えたくないときは、「プレイバックメモリー→」を選び直してください。
- 「視聴設定」で「プレイバックメモリー」が「入」になっているときにディスクを取り出したり、またはディスクを入れたままリモコンの電源ボタンを押してスタンバイモードにしたりすると、そのときに選ばれている「プレイバックメモリー→」または「メモリー1〜5→」の設定内容が、プレイバックメモリーに記憶されます。

画質を項目ごとに調整する

次の項目を個々に調整し、ディスクごとに記憶したり（プレイバックメモリー）、メモリー1〜5の設定内容として保存したりできます。

- ブロックNR（ノイズリダクション）：画面上にモザイクのように現れる、ブロックノイズを低減する。
- Y NR：映像信号中の輝度成分に含まれるノイズを低減する。
- C NR：映像信号中の色成分に含まれるノイズを低減する。
- クロマディレイ：映像中の色が水平方向にずれている場合に、ずれを調整する。
- ピクチャー：コントラストを調整する。
- 明るさ：全体の明るさを調整する。
- 色の濃さ：色をより濃く、またはよりうすく調整する。
- 色あい：色のバランスを調整する。
- シャープネス：画像の輪郭を強調して、くっきりとした映像にする。
- ガンマ：映像中の白つぶれや黒つぶれを低減する。次ページの「映像中の白つぶれや黒つぶれを低減する（ガンマ補正）」をご覧ください。

1 ↑/↓で「ビデオコントロール」を選んで、決定ボタンを押す。

2 「プレイバックメモリー→」または設定を変更したいメモリー番号を↑/↓で選んで、決定ボタンを押す。
ビデオコントロール画面が表示されます。

3 調整したい項目を↑/↓で選んで、決定ボタンを押す。
選んだ項目が表示されます。
調整を途中でやめたいときは決定ボタンを押す前に、リターンボタンを押します。

4 ↑/↓で選んだ項目を調整し、決定ボタンを押す。
値が表示されます。

5 他の項目を調整するときは、手順3から4を繰り返す。

6
- **「プレイバックメモリー→」を選んでいるとき**
  ディスクを取り出すとき、またはリモコンの電源ボタンを押して本機をスタンバイモードにしたときに、設定内容が記録されます。
- **「メモリー1〜5→」を選んでいるとき**
  ↑/↓でビデオコントロール画面の一番下にある SAVE を選び、決定ボタンを押す。
  手順2で選んだメモリー番号に、設定内容が記録されます。

調整した項目をお買い上げ時の状態に戻すには
ビデオコントロール画面で↑/↓で「リセット」を選び、決定ボタンを押します。

ご注意
- ディスクによっては、「ブロックNR」、「Y NR」、「C NR」の効果がわかりにくいことがあります。
- COMPONENT VIDEO OUT端子からインターレース（525i）方式で映像を出力しているときは、「色あい」は働きません。

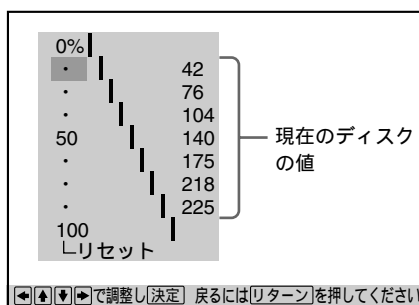
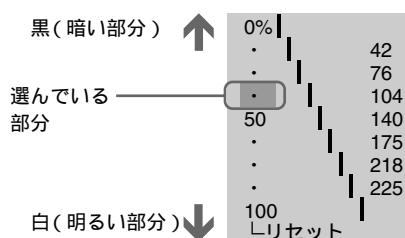
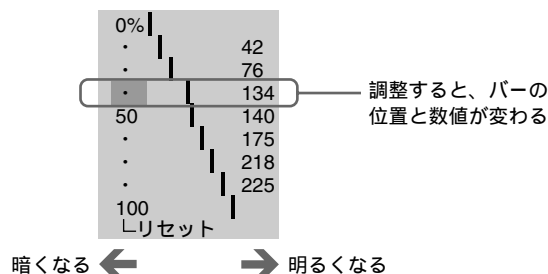
映像中のつぶれを調整する（ガンマ補正）

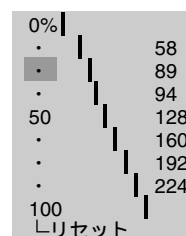
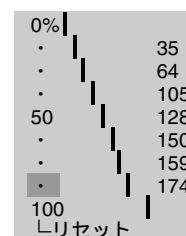
お使いのテレビや部屋の状態など、ソフトを楽しむ環境によっては映像中の暗い部分のディテール（細部）が見にくくなってしまったり、同様に明るい部分のディテール（細部）が見にくくなってしまうことがあります。
ガンマ補正を行うと、判別できなくなってしまう明るさの部分だけを補正して、映像の見やすさを改善することができます。「ビデオコントロール」の「明るさ」調整では映像全体の明るさを変えてしまうため、明るい部分の明るさを調整せずに、暗い部分だけを明るくしたい（または暗い部分の暗さは調整せずに、明るい部分だけを暗くしたい）といったときに便利です。

例：陰影に富んだシーンが多い映像ソフトで、暗い部分がよくわからない場合
「ビデオコントロール」の「明るさ」調整で映像全体の明るさを上げて暗い部分を見やすくすると、映像全体が明るくなってしまい、思い通りの映像にならないことがあります。
このような場合はガンマ補正を利用して暗い部分だけの明るさを少し上げることで、映像のディテールをつぶさずに見やすい映像に調整できます。

1 **↑/↓で「ビデオコントロール」を選んで、決定ボタンを押す。**

2 **「プレイバックメモリー→」または設定を変更したいメモリー番号を↑/↓で選んで、決定ボタンを押す。**
ビデオコントロール画面が表示されます。

3 **↓を押して、「ガンマ」を選び、決定ボタンを押す。**
ガンマ補正画面が表示されます。

4 **↑/↓で調整したい明るさの部分を選ぶ。**
上方向が暗い部分、下方向が明るい部分になります。

5 **←/→で選んだ明るさの部分のレベルを調整する。**
←を押すとレベルが下がり（暗くなり）、→を押すとレベルが上がり（明るくなり）ます。
16〜235の値で設定できます。暗い部分がそれより明るい部分を超えるような設定はできません。

6 **手順4と5を繰り返して、明るさの部分のレベルを調整する。**
明るさごとのレベルをつないだ線は、できるだけなだらかな曲線になるように調整します。

暗い部分を明るくするための例

明るい部分を暗くするための例

極端な凹凸が出るように調整すると、映像が乱れて表示されるように感じる原因となります。画面で映像を見ながら、少しずつ値を調整してください。調整を途中でやめたいときは、リターンボタンを押します。

7 **決定ボタンを押す。**
ビデオコントロール画面に戻ります。

8
- **「プレイバックメモリー→」を選んでいるとき**
  ディスクを取り出すとき、またはリモコンの電源ボタンを押して本機をスタンバイモードにしたときに、設定内容が記録されます。
- **「メモリー1〜5→」を選んでいるとき**
  ↑/↓でビデオコントロール画面の一番下にある SAVE を選び、決定ボタンを押す。
  手順2で選んだメモリー番号に、設定内容が記録されます。

ガンマ補正だけをお買い上げ時の設定に戻すには
ガンマ補正画面で↑/↓で「リセット」を選び、決定ボタンを押します。

ガンマ補正画面の位置を左右に移動できます
◄◄/►►ボタンを押して、ガンマ補正画面の位置を左右に移動させることができます。

再生の情報を見る DVD

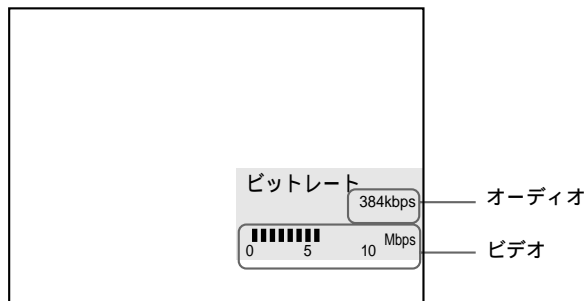
ビットレートまたは、ディスクのレイヤーおよび光ピックアップの位置についての情報を見ることができます。
再生中、映像のおよそのビットレートがMbps（Mega bit per second）で、音声のおよそのビットレートがkbps（kilo bit per second）で表示されます。

画面表示ボタンを押したあと、「アドバンスト」を選びます。

■ **アドバンスト**
お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。
- <u>ビットレート</u>：ビットレートを表示する。
- レイヤー：レイヤーおよび光ピックアップのおよその位置を表示する。
- 消：アドバンスト画面を消す。

各項目の表示

画面表示ボタンを繰り返し押すと、アドバンストで選んだ「ビットレート」または「レイヤー」が表示されます。

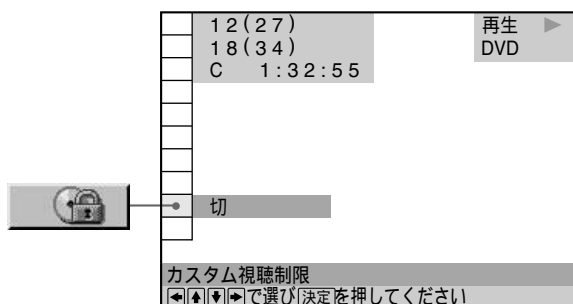
ビットレート

ビットレートはDVDに圧縮して記録されている画像や音声の、1秒あたりの情報量を示す値です。画像の場合、単位はMbps（Mega bit per second）で、1Mbpsは1秒あたりの情報量が1,000,000ビットであることを表します。音声の場合、単位はkbps（kilo bit per second）です。
この値が大きいほど画像や音声の情報量は多くなりますが、必ずしも画質や音質とは直接関係しません。

レイヤー

再生中、光ピックアップのおよその位置を示します。
2層のDVDではどちらのレイヤーが読まれているかも示します（「Layer 0」または「Layer 1」）。
レイヤーについて詳しくは、73ページのDVDの項目をご覧ください。

ディスクを制限する（カスタム視聴制限）

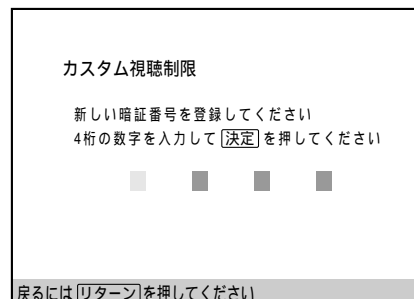
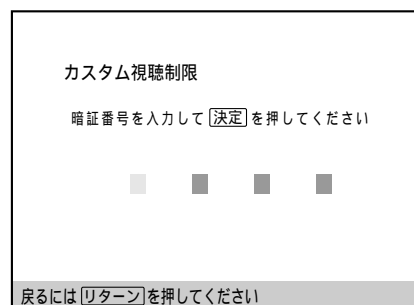
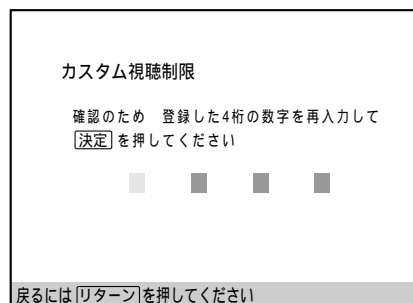
登録した暗証番号を使って、ディスクごとに本機での再生を禁止することができます。
登録した同じ暗証番号で、300枚までのディスクにカスタム視聴制限を設定することができます。301枚目のディスクを設定すると、1番最初に設定したディスクの制限が解除されます。
視聴年齢制限（59ページ）でも、カスタム視聴制限と同じ暗証番号を使います。

画面表示ボタンを押して、「カスタム視聴制限」を選びます。

ディスクにカスタム視聴制限を設定する

1 設定したいディスクを入れる。
ディスクを再生しているときは、■を押して再生を止めます。

2 ↑/↓で「カスタム視聴制限」を選んで、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓で「入→」を選んで、決定ボタンを押す。

■ 暗証番号が登録されていないとき
暗証番号入力の画面が表示されます。

■ 暗証番号がすでに登録されているとき
暗証番号確認の画面が出ます。手順4をとばして手順5に進みます。

4 4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
決定ボタンを押すと数字は「＊」に変わり、暗証番号確認の画面になります。

5 暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
「カスタム視聴制限を設定しました」と表示され、コントロールメニューの画面に戻ります。

通常の画面に戻すときは

リターンボタンを押します。

カスタム視聴年齢制限を解除するときは

1 ↑／↓で「カスタム視聴制限」を選んで、決定ボタンを押す。
2 ↑／↓で「切→」を選んで、決定ボタンを押す。
3 4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。

暗証番号を変更したいときは

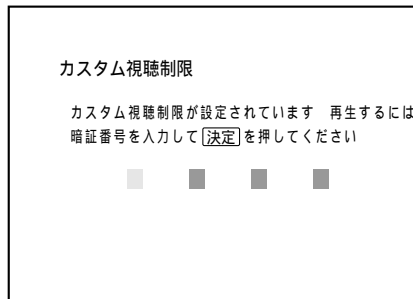
1 ↑／↓で「カスタム視聴制限」を選んで、決定ボタンを押す。
2 ↑／↓で「暗証番号変更→」を選んで、決定ボタンを押す。
3 4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。暗証番号変更の画面が表示されます。
4 新しい4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
5 確認のため、暗証番号を数字ボタンでもう1度入力し、決定ボタンを押す。

カスタム視聴制限が設定されているディスクを再生する

1 ディスクを入れる。

カスタム視聴制限の画面が表示されます。

カスタム視聴制限

カスタム視聴制限が設定されています　再生するには
暗証番号を入力して 決定 を押してください

2 4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。

再生が始まります。

暗証番号を忘れてしまったときは

カスタム視聴制限画面で、暗証番号を入力する案内が表示されているとき、6桁の数字「199703」を入力します。画面に、新しい4桁の暗証番号を入力する案内が表示されます。

ご注意

カスタム視聴制限が設定されたディスクは、暗証番号を入力しないと再生することはできません。暗証番号がわからない場合は、⏏ボタンを押してディスクを取り出してください。

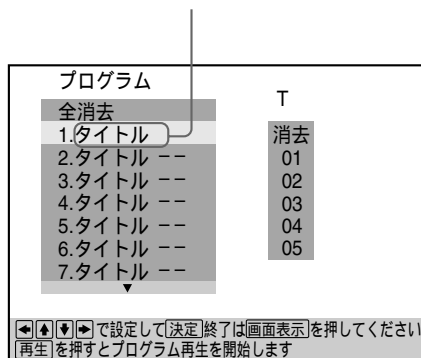
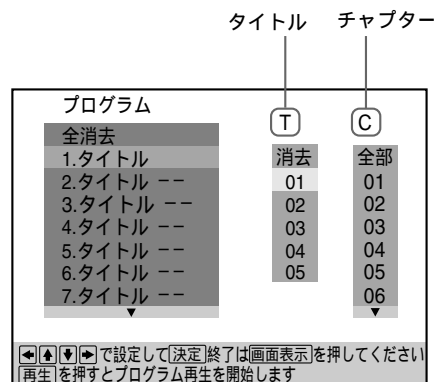
好きな順に再生する（プログラム再生）DVD

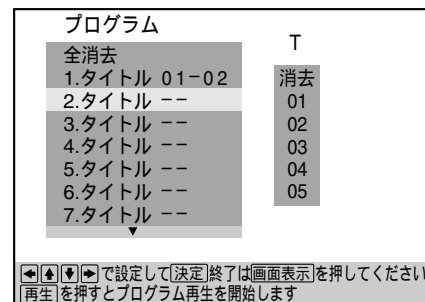
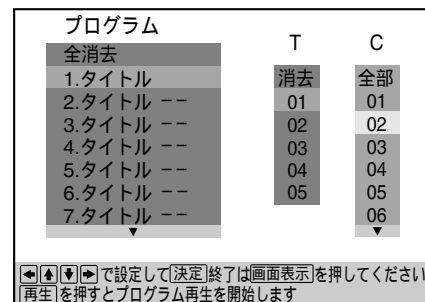
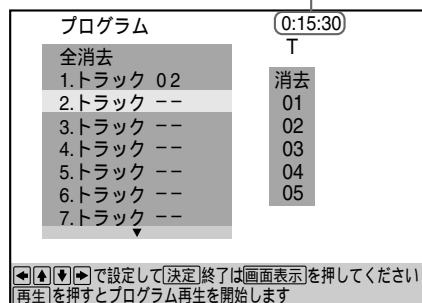
タイトルやチャプター、トラックを好きな順に選んでプログラムを作り、再生できます。最大99個のタイトルやチャプター、トラックがプログラムできます。

画面表示ボタンを押したあと、「プログラム」を選びます。
「入」を選んでいるときはプログラム表示が緑に点灯します。

■ **プログラム**
お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。
- 切：ふつうの再生。
- 設定➔：プログラムを設定する。
- 入：プログラム再生。

プログラムを設定する

1 「プログラム」の「設定➔」を選ぶ。
プログラム設定画面が表示されます。

2 ➔を押す。
タイトルまたはトラック「01」が選ばれます。プログラムの最初のタイトルまたはトラックを設定します。

3 ↑／↓でプログラム再生したいタイトル/チャプター/トラックを選んで、決定ボタンを押す。
例えばタイトルまたはトラック「02」を選びます。（数字ボタンで選び、決定ボタンを押して選択することもできます。このとき選択した番号が画面に表示されます。）

■ DVDのとき
タイトルとチャプターの両方が記録されている場合は、タイトルを選んでから、チャプターを選択する。

■ SACD/CD/ビデオCDのとき
ディスクに記録されているトラックの中から再生するトラックを選ぶ。

4 他に再生するタイトル/チャプター/トラックを設定したいときは、手順3を繰り返す。
設定したタイトル/チャプター/トラックが選んだ順に表示されます。

5 ▷を押す。
プログラム再生が始まります。

プログラム再生をやめるときは
クリアボタンを押します。

プログラムの設定をやめるときは
リモコンのプログラムボタンを押します。

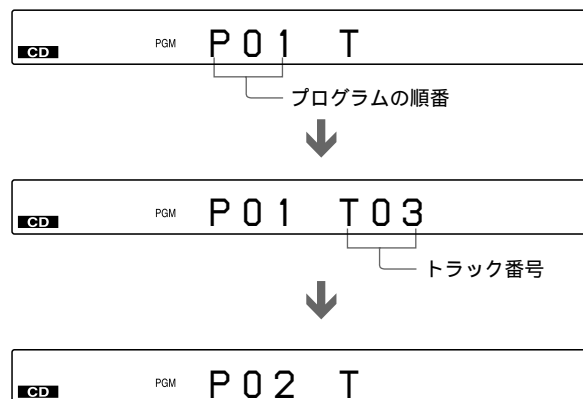
プログラムの設定を変更するときは
1 手順2で、↑/↓を使って変更したいタイトル、チャプター、トラックのプログラム番号を選ぶ。
2 手順3の操作で新しい設定を入力する。

設定したプログラムを消すには
すべて消すときは、手順2で「全消去」を選びます。ひとつずつ消すときは、手順2で↑/↓を使って消したいプログラムを選んでクリアボタンを押すか、手順3で「消去」を選んだあと、決定ボタンを押します。

プログラム再生が終わっても、プログラムは残っています
▷を押すと、同じプログラムをもう1度再生します。

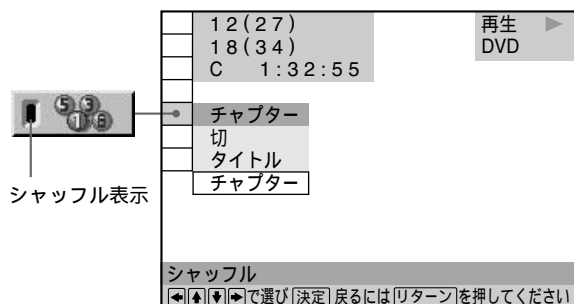
設定したプログラムで「リピート再生」や「シャッフル再生」もできます
プログラムを再生中に、リモコンのくり返しボタンやシャッフルボタンを押してください。または、コントロールメニュー画面の「リピート」または「シャッフル」を「入」にしてください。

「プログラム」を直接選べます。
リモコンのプログラムボタンを押します。

本体の表示窓を見ながらプログラム設定したいタイトルまたはチャプター、トラックを選ぶことができます
テレビ画面のプログラム画面のかわりに、本体の表示窓を見ながらプログラム設定することもできます。
例えば、プログラム1にCDのトラック3を設定したときは、下記のように表示窓に表示されます。

ご注意
- タイトル/チャプター/トラックはディスクに記録されている数だけ画面に表示されます。
- 設定したプログラムは、次の場合に解除されます。
  – ディスクトレイを開いたとき
  – リモコンの電源ボタンを押して、本機がスタンバイモード（待機状態）になったとき
  – 本体のPOWERスイッチを押して電源を切ったとき
- DVDによってはプログラム再生ができない場合があります。
- ビデオCDのPBC再生時は、再生を止めてからプログラムを設定してください。
- SACDのときは、トラック番号の数が3桁で表示されます。

順不同に再生する（シャッフル再生）DVD

ディスク上のタイトル番号やトラック番号に関係なく、本機が自動的に順番を選んで、ひと通り再生します。再生する順番は、「シャッフル」を選ぶたびに変わります。

画面表示ボタンを押したあと、「シャッフル」を選びます。
「切」以外の項目を選んでいるときはシャッフル表示が緑に点灯します。

■ **シャッフル**
シャッフル再生の設定を選びます。
お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

DVDで「プログラム」を「切」にして再生するとき
- 切：シャッフル再生しません。
- タイトル：タイトルを順不同にして再生します。
- チャプター：チャプターを順不同にして再生します。

ビデオCDまたはSACD/CDで「プログラム」を「切」にして再生
するとき
- 切：シャッフル再生しません。
- トラック：トラックを順不同にして再生します。

ビデオCDまたはSACD/CD、DVDで「プログラム」を「入」にして再生するとき
- 切：シャッフル再生しません。
- 入：タイトルまたはトラックをプログラム番号ごとに順不同にして再生します。

シャッフル再生をやめるときは

クリアボタンを押します。

停止中でもシャッフル再生の設定ができます
「シャッフル」で項目を選んで▷ボタンを押します。
シャッフル再生が始まります。

「シャッフル」を直接選べます。
リモコンのシャッフルボタンを押します。ボタンを押すたびに項目が切り換わります。

ご注意
- シャッフル再生は、次の場合に解除されます。
  – ディスクトレイを開いたとき
  – リモコンの電源ボタンを押して、本機がスタンバイモード（待機状態）になったとき
  – 本体のPOWERスイッチを押して電源を切ったとき
- DVDによってはシャッフル再生ができない場合があります。
- 「チャプター」を選んだとき、ディスク中の200のチャプターまでシャッフル再生できます。
- ビデオCDをPBC再生しているときは、シャッフル再生はできません。（28ページ）

繰り返し再生する（リピート再生） DVD

ディスクのすべてのタイトルまたはトラック、または1つのタイトル/チャプター/トラックを繰り返し再生できます。
シャッフル再生やプログラム再生と組み合わせると、シャッフル再生やプログラム再生での順番で繰り返し再生します。
ビデオCDのPBC再生（28ページ）では、リピート再生できません。

画面表示ボタンを押したあと、「リピート」を選びます。「切」以外の項目を選んでいるときはリピート表示が緑に点灯します。

■ リピート

リピート再生の設定を選びます。
お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

DVDで「プログラム」と「シャッフル」を「切」にして再生するとき

- 切：リピート再生しません。
- ディスク：すべてのタイトルを繰り返し再生します。
- タイトル：再生中のタイトルを繰り返し再生します。
- チャプター：再生中のチャプターを繰り返し再生します。

ビデオCDまたはSACD/CDで「プログラム」および「シャッフル」を「切」にして再生するとき

- 切：リピート再生しません。
- ディスク：すべてのトラックを繰り返し再生します。
- トラック：再生中のトラックを繰り返し再生します。

「プログラム」または「シャッフル」を「切」以外にして再生するとき

- 切：リピート再生しません。
- 入：プログラム再生、シャッフル再生を繰り返し再生します。

リピート再生をやめるときは

クリアボタンを押します。

停止中でもリピート再生の設定ができます

「リピート」で項目を選んで▷ボタンを押します。
リピート再生が始まります。

「リピート」を直接選べます

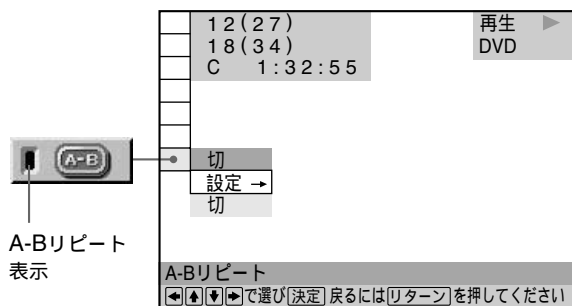
リモコンのくり返しボタンを押します。ボタンを押すたびに項目が切り換わります。

ご注意

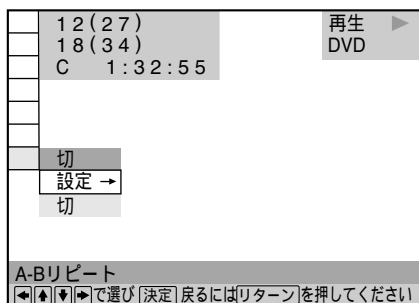
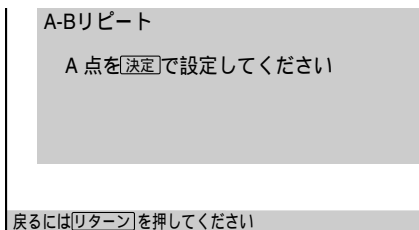
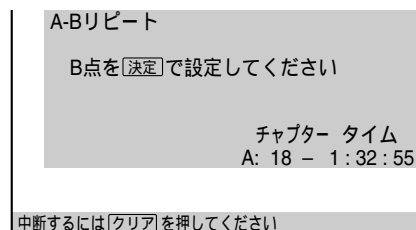
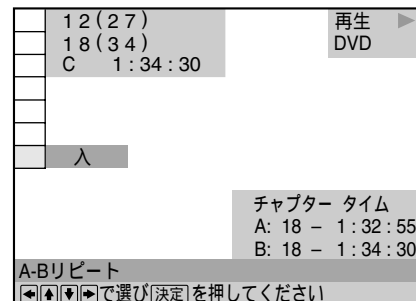
- リピート再生は、以下の場合に解除されます。
  - ディスクトレイを開いたとき
  - リモコンの電源ボタンを押して、本機がスタンバイモード（待機状態）になったとき
  - 本体のPOWERスイッチを押して電源を切ったとき
- DVDによってはリピート再生ができない場合があります。

再生したい部分だけを繰り返す（A-Bリピート）DVD

再生したい部分を指定して、繰り返し再生できます。語学学習や歌詞を覚えるときに便利です。
ビデオCDのPBC再生（28ページ）では、動画の再生中にのみできる操作です。

画面表示ボタンを押したあと、「A-Bリピート」を選びます。
A-Bリピート中はA-Bリピート表示が緑に点灯します。

■ A-Bリピート
お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。
- 設定→：繰り返す部分の始点（A点）と終点（B点）を設定します。
- 切：A-Bリピート再生しません。

繰り返す部分を設定する

1 **「A-Bリピート」を選び、決定ボタンを押す。**

2 **「A-Bリピート」の「設定→」を選び、決定ボタンを押す。**
A-Bリピート設定画面が表示されます。

3 **再生中に繰り返す部分の始点（A点）で決定ボタンを押す。**
始点（A点）が設定されます。

4 **繰り返す部分の終点（B点）でもう1度決定ボタンを押す。**
指定した部分が表示され、指定した部分を繰り返し始めます。
A-Bリピート再生中は表示窓の「A-B」が点灯します。

A-Bリピートをやめるときは

クリアボタンを押します。

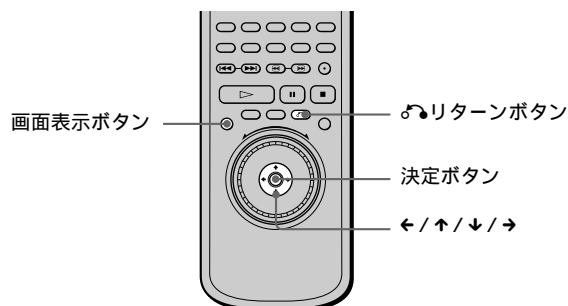
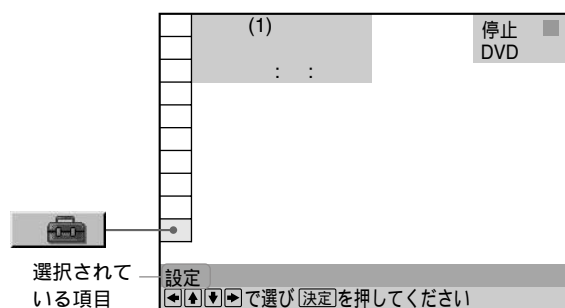
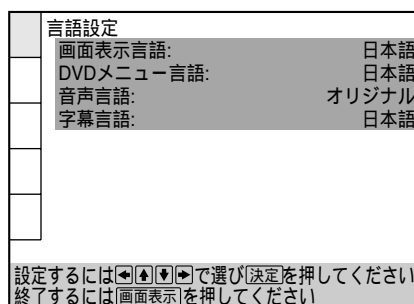
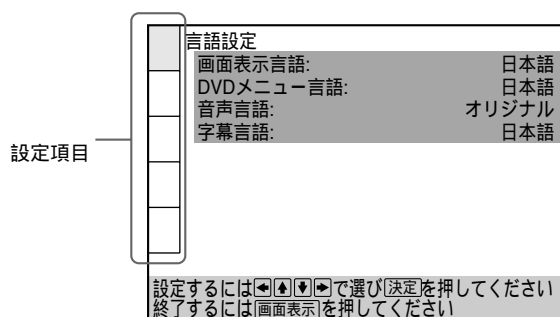
再生したい部分を直接選ぶこともできます
再生中に繰り返す部分の始点（A点）でリモコンのA↔Bボタンを押します。
繰り返す部分の終点（B点）でもう1度A↔Bボタンを押すと、指定した部分を繰り返して再生します。

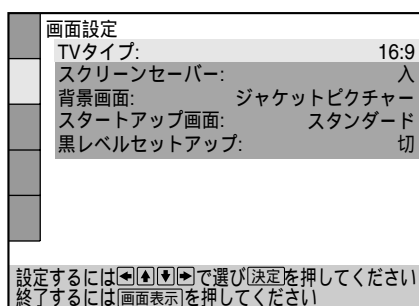
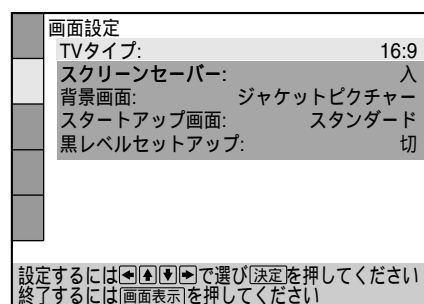
ご注意
- A-Bリピートが設定できるのは1か所のみです。
- 設定したA-Bリピートは、次の場合に解除されます。
  – ディスクトレイを開いたとき
  – リモコンの電源ボタンを押して、本機がスタンバイモード（待機状態）になったとき
  – 本体のPOWERスイッチを押して電源を切ったとき
- A-Bリピートを設定すると、シャッフル再生やリピート再生、プログラム再生は解除されます。
- DVD、ビデオCDの場面によっては、A-Bリピートの設定ができないことがあります。

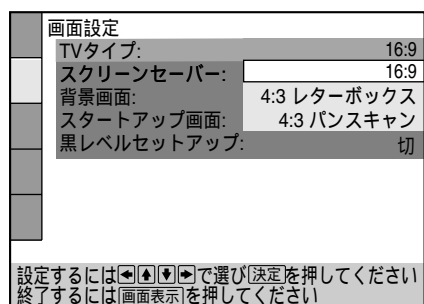
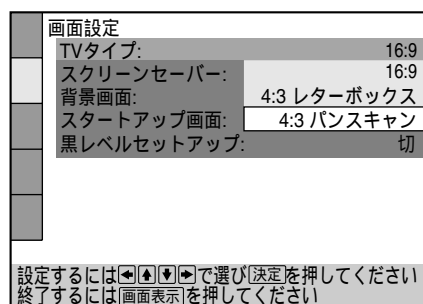
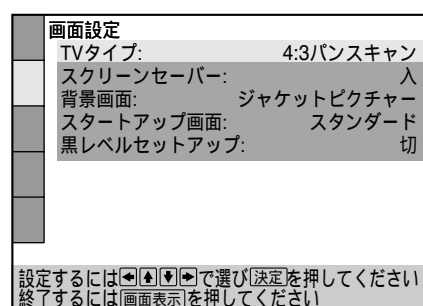
設定と調整

ここでは、設定画面を使った設定と調整について説明します。
本機を初めてお使いになるときに必要な設定もあります。
付属のリモコンを使ったテレビやアンプの操作についてもここで説明しています。

設定画面を使う

設定画面を使って、初期設定や画質や音質の調整、さまざまな出力の設定などができます。また、DVDの字幕の言語やメニューの表示言語、視聴年齢制限の設定などもできます。設定画面の項目について詳しくは、54～64ページをご覧ください。

1 画面表示ボタンを押して、↑／↓で「設定」を選ぶ。

2 決定ボタンを押す。
設定画面が表示されます。

3 ↑／↓で設定項目を選ぶ。

4 **決定ボタンを押す。**

設定項目が選ばれます。

5 ↑／↓で項目を選ぶ。

6 **決定ボタンを押す。**

項目が選ばれます。

7 ←／↑／↓／→で設定内容を選ぶ。

8 **決定ボタンを押す。**

9 **画面表示ボタンを押す。**

設定画面が消えます。

10 **画面表示ボタンを繰り返し押して、画面表示を消す。**

ひとつ前の画面に戻るには

リターンボタンを押します。

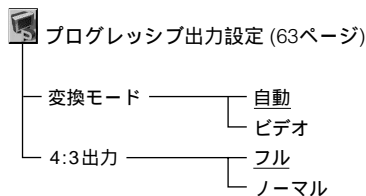
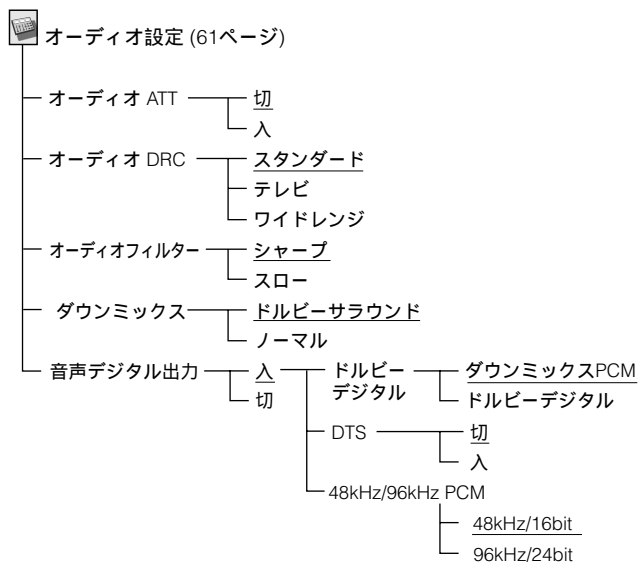
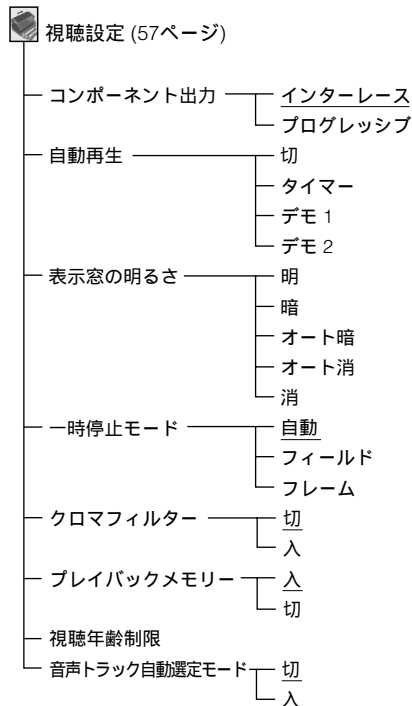
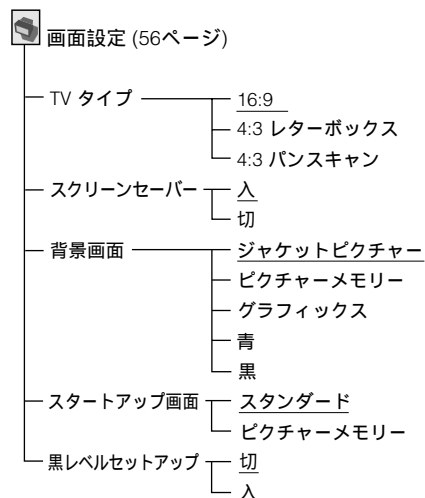
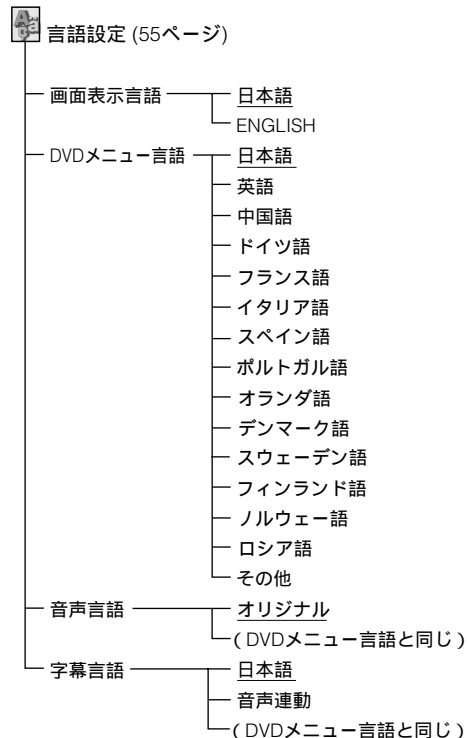
設定を途中でやめるには

画面表示ボタンを押します。

ご注意

- 本機が停止しているときのみ変更できる項目もあります。
- 設定画面の項目には、項目を選ぶ以外の操作が必要なものもあります。このような項目について詳しくは、次ページからの説明をご覧ください。

設定画面項目一覧表

お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

表示言語や音声言語の設定（言語設定） DVD

言語設定画面では、画面や音声の言語を設定することができます。
お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

設定画面で「言語設定」を選びます。

ご注意

- DVDに記録されていない言語を選んだときは、記録されている言語のいずれかが選ばれます（「画面表示言語」を除く）。
- 「DVDメニュー言語」または「音声言語」、「字幕言語」で言語を選んでも、DVDによっては選んだ言語で表示されないことがあります。

■ 画面表示言語

画面の表示言語を切り換えます。

- 日本語
- ENGLISH

■ DVDメニュー言語

DVDに記録されているDVDメニューの言語を切り換えます。

- 日本語
- 英語
- 中国語
- ドイツ語
- フランス語
- イタリア語
- スペイン語
- ポルトガル語
- オランダ語
- デンマーク語
- スウェーデン語
- フィンランド語
- ノルウェー語
- ロシア語
- その他➔

「その他➔」を選んだときは、74ページの言語コード一覧表から言語番号を選んで数字ボタンで入力してください。
言語コードを選ぶと、次からは4桁の数字の言語コードが表示されます。

■ 音声言語

DVDに記録されている音声の言語を切り換えます。

- オリジナル：ディスク内で優先されている言語
- 日本語
- 英語
- 中国語
- ドイツ語
- フランス語
- イタリア語
- スペイン語
- ポルトガル語
- オランダ語
- デンマーク語
- スウェーデン語
- フィンランド語
- ノルウェー語
- ロシア語
- その他➔

「その他➔」を選んだときは、74ページの言語コード一覧表から言語番号を選んで数字ボタンで入力してください。
言語コードを選ぶと、次からは4桁の数字の言語コードが表示されます。

■ 字幕言語

DVDに記録されている字幕の言語を切り換えます。

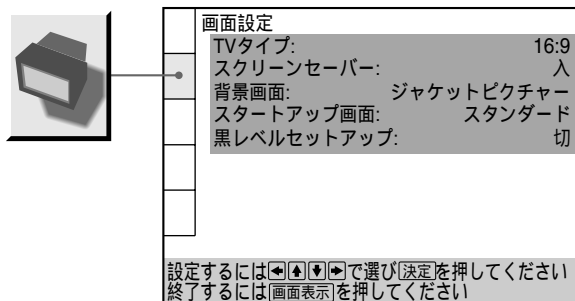
- 日本語
- 音声連動*
- 英語
- 中国語
- ドイツ語
- フランス語
- イタリア語
- スペイン語
- ポルトガル語
- オランダ語
- デンマーク語
- スウェーデン語
- フィンランド語
- ノルウェー語
- ロシア語
- その他➔

「その他➔」を選んだときは、74ページの言語コード一覧表から言語番号を選んで数字ボタンで入力してください。
言語コードを選ぶと、次からは4桁の数字の言語コードが表示されます。

* 「音声連動」を選ぶと、音声の言語に合わせて字幕の言語が切り換わります。

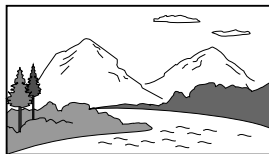
画像に関する設定（画面設定）DVD

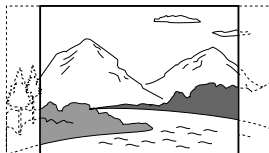
接続するテレビに合わせて設定します。
お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

設定画面で「画面設定」を選びます。

■ TVタイプ

接続するテレビのアスペクト比および、4:3のテレビでDVDのワイド画像を再生するときに出力する画面の形を設定します。

- 16:9：ワイドテレビまたは、ワイドモードのある4:3のテレビで見るとき。
- 4:3 レターボックス：4:3のテレビで、ワイド画像を横長に表示して画面の上下には帯を入れるとき。
- 4:3 パンスキャン：4:3のテレビに、ワイド画像の一部を自動的にカットして画面全体に表示するとき。

16:9

4:3 レターボックス

4:3 パンスキャン

ご注意

DVDによっては「4:3レターボックス」あるいは「4:3パンスキャン」に設定していても、自動的にどちらかで再生されるものがあります。

■ スクリーンセーバー

一時停止または停止したままで15分たつか、CDを15分以上再生すると、スクリーンセーバーの画面に切り換わるよう設定します。これは画像の焼き付き（残像現象）を防ぐのに役立ちます。

- 入：スクリーンセーバーを使う。
- 切：スクリーンセーバーを使わない。

■ 背景画面

停止中やCD再生中などの、画面の背景色や背景画面を設定します。

- ジャケットピクチャー：ディスク（CD-EXTRAなど）にあらかじめ記録されているジャケットピクチャー（静止画像）を背景画面にする。
- ピクチャーメモリー：あらかじめ自分で本機に記録した画像を背景画面にする。画像を記録する方法は「画像を記録する」をご覧ください。
- グラフィックス：あらかじめ本機に記録されているグラフィックピクチャーを背景画面にする。
- 青：画面の背景色を「青」にする。
- 黒：画面の背景色を「黒」にする。

ご注意

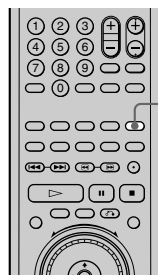
「ジャケットピクチャー」を選んでいるときに、ジャケットピクチャーが記録されていないディスクを再生すると、「グラフィックス」の画像が自動的に表示されます。

■ スタートアップ画面

本機の電源を入れたときに現れるスタートアップ画面を設定します。

- スタンダード：あらかじめ本機に記録されている画像をスタートアップ画面に設定する。
- ピクチャーメモリー：あらかじめ自分で本機に記録した画像を背景画面にする。画像を記録する方法は「画像を記録する」をご覧ください。
  画像を記録する前に「ピクチャーメモリー」を選んだときは、あらかじめ本機に記録されている画像が現れます。

画像を記録するには

再生中に記録したい画像を表示させて、リモコンのピクチャーメモリーボタンを押します。

ご注意

- 本機に記録できる画像は1つだけです。記録された画像がピクチャーメモリーとして、背景画面とスタートアップ画面の両方で使われます。
- 画像を記録させると、前に記録されていた画像は消えます。
- 画像を記録させている途中に他の操作をすると、画像は記録されません。
- DVDの場面によっては、画像を記録できないことがあります。

■ 黒レベルセットアップ

映像（NTSC）信号を出力するときの、黒レベル（セットアップレベル）の基準レベルを切り換えます。

- 切：出力信号の黒レベルを基準レベルにします。通常は「切」にしておきます。
- 入：黒レベルの基準レベルを上げます。テレビに映る画像が極端に暗いときは、この設定にします。

ご注意

COMPONENT VIDEO OUT端子から出力されるプログレッシブ信号には、黒レベルセットアップは働きません。

視聴に関する設定（視聴設定）

視聴年齢制限などを設定します。
お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

設定画面で「視聴設定」を選びます。

■ コンポーネント出力

本機のCOMPONENT VIDEO OUT端子から出力される、映像信号の方式を選びます。映像信号の方式については、「用語解説」（72ページ）をご覧ください。

- インターレース：インターレース方式で映像を出力する。本機を通常のテレビ（インターレース方式）につないでいるときは、この設定を選びます。
- プログレッシブ：プログレッシブ（525p）方式で映像を出力する。本機をプログレッシブ（525p）方式に対応したテレビにつないでいるときは、この設定を選びます。

ご注意

プログレッシブ（525p）方式に対応していないテレビとつないでいるときに、誤って「プログレッシブ」を選ぶと画面が乱れます。その場合は、本機裏面のSCAN SELECTスイッチを「INTERLACE」にしてください。画面が見えるようになるので、「コンポーネント出力」を「インターレース」に戻し、本機裏面のSCAN SELECTスイッチを「SELECTABLE」に戻してください。

■ 自動再生

コンセントをつないだときの動作を設定します。

- 切：「タイマー」、「デモ1」、「デモ2」を使わないで起動する。
- タイマー：電源が入ったとき、自動で再生を始める。別売りのタイマーを使って希望の時刻に再生を始めることができます。タイマーでの時間の設定は本機がスタンバイモードのとき（本体のPOWER（電源）ランプが赤く点灯しているとき）に行ってください。
- デモ1：デモンストレーション1を再生する。
- デモ2：デモンストレーション2を再生する。

■ 表示窓の明るさ
本体の表示窓とランプの明るさを調整します。
- 明：明るくする。
- 暗：暗くする。
- オート暗：本体やリモコンをしばらく操作しないと、暗くなる。
- オート消：本体やリモコンをしばらく操作しないと、消える。
- 消：本体の表示窓の表示を消す。

リモコンで表示窓を表示できます
「消」以外を選んでいるときにリモコンのFLオン/オフを押すと、「表示窓の明るさ」の設定にかかわらず、表示窓をつけたり消したりできます。

■ 一時停止モード（DVDのみ）
一時停止にしたときの画像のモードを設定します。
- 自動：画像中の動きのある部分はぶれずに、動きの少ない部分は高い解像度で見られる。また、コマ送りやスロー再生中も、クリアな画像で見られる（クリアフレーム機能）。通常は「自動」にしておきます。
- フィールド：解像度はフレームより低いが、動きがあってもぶれが少ない。
- フレーム：動きの少ない被写体の画像が高い解像度で見られる。

■ クロマフィルター
本機の映像出力信号のうち、色（C）成分にフィルターをかけて色の帯域を制限することで、画像の色にじみをふせぎます。
- 切：クロマフィルターを使わない。通常は「切」にしておきます。
- 入：クロマフィルターでテレビ画面上の色にじみを防止する。

ご注意
- プログレッシブ出力の信号には、クロマフィルターは働きません。
- COMPONENT VIDEO OUT端子につないでいるときは、映像本来の色を得るために、「切」にしてください。

■ プレイバックメモリー
各ディスクごとの「字幕」や「ビデオコントロール」などの設定をディスク300枚まで本機に記憶させておくことができます（プレイバックメモリー）。プレイバックメモリーの機能でディスクの設定を記憶させるかどうかの設定をします。
- 入：ディスクを取り出すとき、またはディスクを入れたままリモコンの電源ボタンを押してスタンバイモードにしたときに、設定を記憶する。
- 切：設定を記憶しない。

次の設定がプレイバックメモリー機能で記憶されます。
– 音声（38ページ）*
– 字幕（39ページ）*
– アングル（40ページ）*
– ビデオコントロール（41ページ）
* DVDのみ

ご注意
- 本機のプレイバックメモリー機能で記憶できるディスクは300枚までです。300枚をこえると、記憶された順序の古いものから記憶が消えます。
- DVDによっては優先する設定があらかじめ決められていることがあります。この場合プレイバックメモリー機能で設定しても、設定が優先されないことがあります。
- 本体のPOWERスイッチを押して電源を切ると、設定が解除される場合があります。電源を切るときは、■を押して再生を止めてからリモコンの電源ボタンを押してください。電源ランプが赤く点灯し、スタンバイモード（待機状態）になったら、本体のPOWERスイッチを押してください。

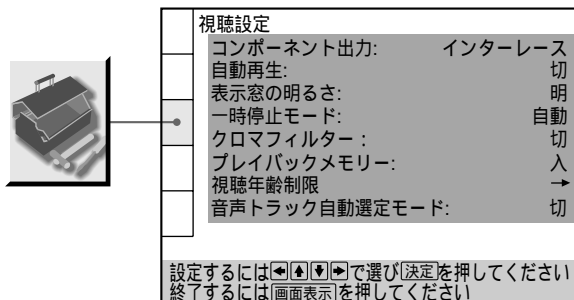
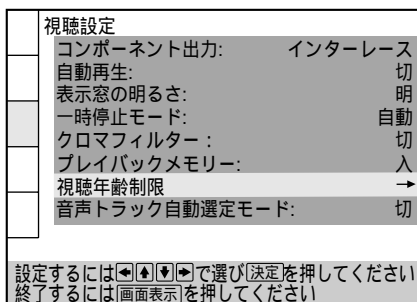
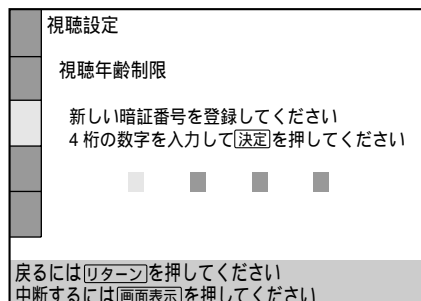
■ 視聴年齢制限→
暗証番号を登録して、視聴年齢制限のあるDVDの再生を制限する設定をします。視聴年齢制限とカスタム視聴制限（45ページ）は同じ暗証番号を使います。詳しくは「年齢による視聴制限をする」（59ページ）をご覧ください。

■ 音声トラック自動選定モード
複数の音声記録方式が用意されているDVDを再生するときに、チャンネル数の最も多い音声記録方式（PCM、DTS、ドルビーデジタル）を優先して再生することができます。
- 切：優先しない。
- 入：優先する。

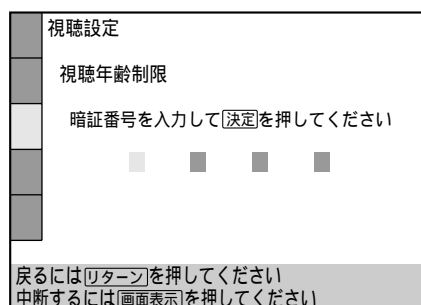
ご注意
- この設定を「入」にすると、言語が切り換わることがあります。これは「音声トラック自動選定モード」の設定が「言語設定」の「音声言語」（55ページ）より優先されるためです。
- 「オーディオ設定」の「音声デジタル出力」で「入」を選び、「DTS」を「切」に設定していると、「音声トラック自動選定モード」で「入」を選んで、DTS音声がチャンネル数が最も多くても、DTS音声は再生されません。
- PCMやDTS、ドルビーデジタルのチャンネル数が同じだった場合、PCM、DTS、ドルビーデジタルの順で優先されます。
- DVDによっては優先する音声があらかじめ決められていることがあります。この場合「入」に設定しても、チャンネル数の多い音声記録方式が優先されないことがあります。

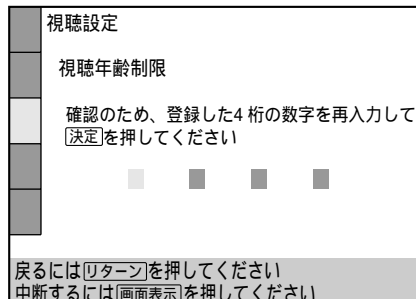
年齢による視聴制限をする DVD

DVDの中には、見る人の年齢によって視聴を制限できるものがあります。視聴年齢制限機能を使うと、この視聴制限レベルを設定することができます。

設定画面で「視聴設定」を選びます。

1 **↑／↓で「視聴年齢制限」を選んで、決定ボタンを押す。**

■ **暗証番号が登録されていないとき**

暗証番号入力の画面が表示されます。

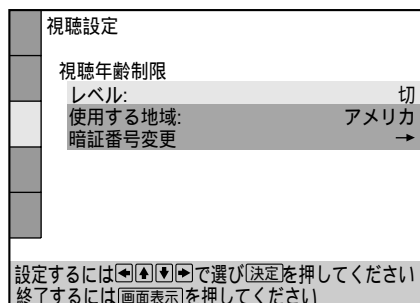
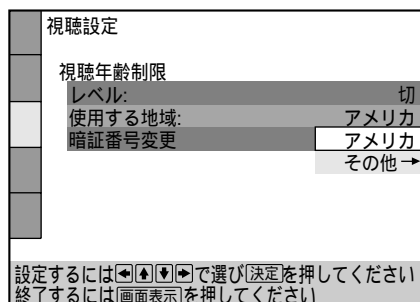
■ **暗証番号がすでに登録されているとき**

暗証番号確認の画面が出ます。手順2をとばして手順3に進みます。

2 **4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。**

決定ボタンを押すと、数字は「＊」に変わり、暗証番号確認の画面になります。

3 **暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。**

視聴制限のレベル設定および、暗証番号の変更の画面が表示されます。

4 **↑／↓で「使用する地域」を選んで、→を押す。**

視聴設定
視聴年齢制限
レベル: 切
使用する地域: アメリカ
暗証番号変更
アメリカ
その他 →
設定するには◄▲▼►で選び決定を押してください
終了するには画面表示を押してください

5 **↑／↓で視聴制限レベルの基準にする地域を選んで、決定ボタンを押す。**

「その他→」を選んだときは、次ページの表から地域コードを選び、数字ボタンで入力します。

6 **↑／↓で「レベル」を選んで→を押す。**

7 **↑／↓で制限するレベルを選んで、決定ボタンを押す。**

レベルの数字が小さいほど制限が厳しくなります。

通常の画面に戻すときは

画面表示ボタンを押します。

視聴年齢制限を解除してDVDを再生するときは

手順7で「レベル」を「切」にして、▷を押します。

暗証番号を変更したいときは

1 手順3で ↑／↓を使って「暗証番号変更」を選び、決定ボタンを押す。
　暗証番号変更の画面が出ます。

2 もう1度手順2と手順3を行い、新しい暗証番号を登録する。

視聴制限のレベルを設定したディスクを再生するときは

1 ディスクを入れて、▷を押す。
　視聴制限の暗証番号入力画面が表示されます。

2 4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
　再生が始まります。
　DVDの再生をやめると、視聴制限のレベルは元に戻ります。

登録した暗証番号を忘れてしまったときは

視聴年齢制限画面で、暗証番号を入力する案内が表示されているとき、6桁の数字「199703」を入力します。画面に、新しい4桁の暗証番号を入力する案内が表示されます。

ご注意

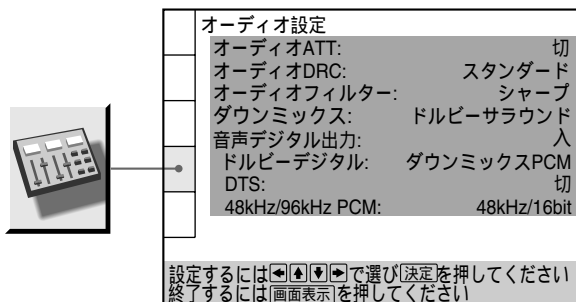
- 視聴年齢制限機能がないDVDは、本機で視聴制限をしても再生は制限できません。
- 暗証番号の設定をしないと、設定値の変更ができません。
- DVDによっては、再生中に視聴制限レベルの変更を要求されることがあります。このときは暗証番号を入力してレベルを変更してください。なお、停止すると元のレベルに戻ります。
- 視聴年齢制限とカスタム視聴制限（45ページ）は同じ暗証番号を使います。

地域コード

使用する地域	コード番号	使用する地域	コード番号
アルゼンチン	2044	チリ	2090
イギリス	2184	デンマーク	2115
イタリア	2254	ドイツ	2109
インド	2248	日本	2276
インドネシア	2238	ニュージーランド	2390
オーストラリア	2047	ノルウェー	2379
オーストリア	2046	パキスタン	2427
オランダ	2376	フィリピン	2424
カナダ	2079	フィンランド	2165
韓国	2304	ブラジル	2070
シンガポール	2501	フランス	2174
スイス	2086	ベルギー	2057
スウェーデン	2499	ポルトガル	2436
スペイン	2149	香港	2219
タイ	2528	マレーシア	2363
台湾	2543	メキシコ	2362
中国	2092	ロシア	2489

音声に関する設定（オーディオ設定）

再生するときの音の設定を、再生や接続などの条件に合わせて設定します。
お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

設定画面で「オーディオ設定」を選びます。

■ **オーディオATT（attenuation）**（アテニュエイション）

音が歪むときにこの設定を「入」にします。本機の音声出力レベルを低くします。接続している機器にあわせて、AUDIO OUT端子からの出力を選びます。

- 切：「オーディオATT」を働かせない。
  通常は「切」にする。
- 入：音が歪まないように音声の出力レベルを低くする。
  テレビのスピーカーからの音が歪むときなどにこの設定を選ぶ。

ご注意

この設定はDIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子からの出力には影響しません。

■ **オーディオDRC（Dynamic Range Control）**（ダイナミック レンジ コントロール）

DVDの音量を下げて聞くときに、小さい音までよく聞こえるようにします。オーディオDRC機能のあるDVDを再生しているときのみ効果があります。この機能は、AUDIO OUT端子からの出力および「音声デジタル出力」を「入」に設定し、「ドルビーデジタル」を「ダウンミックスPCM」に設定したとき、DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子の出力に働きます。

- スタンダード：通常は「スタンダード」にする。
- テレビ：小さい音までよく聞こえるようにする。特に、テレビのスピーカーを使って音を聞いているときに効果がある。
- ワイドレンジ：ディスクに記録されている音を忠実に再現する。視聴条件によっては、音が聞き取りにくくなることがある。

ご注意

オーディオDRC機能のないDVDを再生しているときは、効果がありません。

■ **オーディオフィルター**

22.05kHz（Fs - サンプリング周波数 - 44.1kHzのとき）、24kHz（Fs 48kHz）、48kHz（Fs 96kHzのとき）以上の雑音を除去するために使う、デジタルフィルターの種類を選びます。

- シャープ：フラットな音質で明瞭な音像定位が得られる。
  通常は「シャープ」にしておきます。
- スロー：雰囲気のあるあたたかい音が得られる。

ご注意

- ディスクや視聴条件によっては、効果がわかりにくいことがあります。
- SACDを再生しているときは、効果がありません。

■ **ダウンミックス**

LS（リア：左）またはRS（リア：右）、S（リア：モノラル）などのリア信号成分を含むドルビーデジタルで記録されているDVDを再生するとき、ダウンミックスの方式を切り換えます。リア信号成分について詳しくは、「再生しているチャンネルを表示する」（38ページ）をご覧ください。
「ダウンミックス」の設定は次の端子からの出力に影響します。

－AUDIO OUT端子
－DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子（「音声デジタル出力」を「入」に設定し、「ドルビーデジタル」を「ダウンミックスPCM」に設定したとき）

- ドルビーサラウンド：ドルビーサラウンド（プロロジック）に対応しているオーディオ機器に接続しているときに選ぶ。ドルビーサラウンド（プロロジック）の効果のかかった出力信号が2チャンネルにダウンミックスされる。
- ノーマル：ドルビーサラウンド（プロロジック）に対応していないオーディオ機器に接続しているときに選ぶ。ドルビーサラウンド（プロロジック）効果がかかっていない信号が出力される。

■ **音声デジタル出力**

DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子から出力する音声信号の方式を切り換えます。

- 入：通常は「入」にする。「入」を選んだら、「ドルビーデジタル」、「DTS」および「48kHz/96kHz PCM」を設定する。設定について詳しくは、次ページの「音声デジタル出力の信号を設定する」をご覧ください。
- 切：DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子から音声信号を出力しない。「切」を選ぶとデジタル回路がアナログ回路に与える影響を最小限に抑えられる。

本体のボタンでも音声デジタル出力を切り換えられます

「音声デジタル出力」が「入」のとき、停止中に本体のAUDIO DIRECTボタンを押すと、デジタル音声を出力する／しないを切り換えられます。なお、AUDIO DIRECTボタンを押しても、「音声デジタル出力」の設定は変わりません（24ページ）。

ご注意

- 「切」を選んでいるときは、「ドルビーデジタル」、「DTS」および「48kHz/96kHz PCM」を設定できません。
- SACDの音声は、DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子からは出力されません。

音声デジタル出力の信号を設定する

DIGITAL OUT OPTICALまたはCOAXIAL端子に、光デジタル接続コードや同軸デジタル接続コードを使って、次のような機器をつないだときの、音声信号の出力方式を設定します。

－デジタル端子のあるアンプ
－ドルビーデジタルまたはDTSデコーダー内蔵のオーディオ機器
－MDデッキまたはDATデッキ

接続について詳しくは、17ページをご覧ください。

「音声デジタル出力」で「入」を選んでから、「ドルビーデジタル」、「DTS」および「48kHz/96kHz PCM」を設定してください。

お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

■ **ドルビーデジタル**

DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子から出力するドルビーデジタル信号の方式を選びます。

- ダウンミックスPCM：ドルビーデジタルデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないでいるときに選ぶ。
  ドルビーデジタルの音声を再生すると2chにダウンミックスされる。出力される信号のサラウンド効果の有無は「オーディオ設定」の「ダウンミックス」の設定によって決まる。
- ドルビーデジタル：ドルビーデジタルデコーダーを内蔵したオーディオ機器につないで音を出すときに選ぶ。
  ドルビーデジタルデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないだときは、この設定にしない。誤って設定すると、音が出なかったり異音が出て耳に悪影響を及ぼしたりスピーカーを破損したりすることがある。

■ DTS

DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子からDTS信号を出力するかどうかを選びます。

- 切：DTSデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないでいるときに選ぶ。
- 入：DTSデコーダーを内蔵しているオーディオ機器をつないでいるときに選ぶ。
  DTSデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないでいるときは、この設定にしない。誤って設定すると、音が出なかったり異音が出て耳に悪影響を及ぼしたり、スピーカーを破損したりすることがある。

■ 48kHz/96kHz PCM（DVDのみ）

DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子から出力するオーディオ信号のサンプリング周波数と量子化ビット数を選びます。

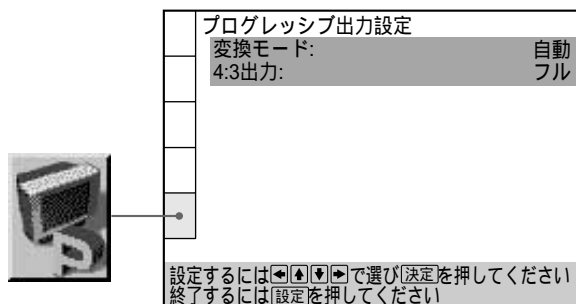
- 48kHz/16bit：DVDのオーディオ信号は48kHz/16bitに変換されて出力される。
- 96kHz/24bit：96kHz/24bitの信号を含むすべての信号がそのまま出力される。ただし、著作権保護のための信号が含まれているときは48kHz/16bitで出力される。

ご注意

96kHzに対応していないアンプなどをつないでいるときに、96kHz/24bitを選ぶと、音が出なかったり突然大音量が出ることがあります。

プログレッシブ出力の設定を選ぶ（プログレッシブ出力設定）DVD

プログレッシブ（525p）方式対応のテレビにつないで「視聴設定」の「コンポーネント出力」で「プログレッシブ」を選んでいるときに、プログレッシブ（525p）映像の出力のしかたを設定できます。
お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

設定画面で「プログレッシブ出力設定」を選びます。

ご注意

プログレッシブ方式に対応していないテレビとつないでいるときに、誤って「プログレッシブ」を選ぶと画面が乱れます。その場合は、本体裏面のSCAN SELECTスイッチを「INTERLACE」にしてください。画面が見えるようになるので、「コンポーネント出力」を「インターレース」に戻し、本体裏面のSCAN SELECTスイッチを「SELECTABLE」に戻してください。

■ 変換モード

DVDの映像素材には、大きく分けてビデオ素材とフィルム素材があります。ビデオ素材はテレビドラマやテレビアニメーションなどの番組（1秒30フレーム、60フィールド）をDVDに記録したもので、フィルム素材とは映画フィルム（1秒24コマ）をDVDに記録したものです。
これらの素材を1秒あたり60のコマ（フレーム）で構成しているプログレッシブ方式対応のテレビで自然に再現するためには、素材に合わせて変換方法を使い分ける必要があります。
変換方法について詳しくは、次ページの「ビデオ素材とフィルム素材のプログレッシブ方式への変換方法について」をご覧ください。

- 自動：ビデオ素材とフィルム素材の違いを本機が検出し、自動的に素材に合わせた変換モードに切り換える。
- ビデオ：DVDの内容がビデオ素材であるかフィルム素材であるかに関わらず、常にビデオ素材用の変換モードで映像を変換する。

ご注意

- DVDの中には、ビデオ素材とフィルム素材の両方が記録されているものがあります。（例：映画本編はフィルム素材、メイキング編はビデオ素材）
- 「ビデオ」を選んでいるときにフィルム素材の映像を再生しようとすると、映像の一部が乱れます。
- 「自動」を選んでいるときでも、ビデオ素材の映像の一部が乱れて再生されることがあります。これはDVDに記録されている再生のための出力方式（プログレッシブ／インターレース）の符号が正しく記録されていないために起こる問題です。
  この問題が発生するDVDを再生する場合には、変換モードを「ビデオ」にして再生してください。

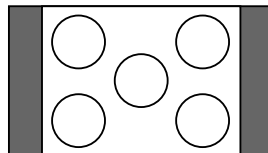
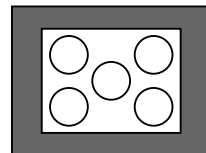
■ 4:3出力

アスペクト比が4:3の映像をプログレッシブ方式で出力するときの、処理のしかたを設定します。プログレッシブ（525p）方式対応のテレビでアスペクト比を変更できるときは、テレビの設定を変更してください。

- フル：つないでいるテレビでアスペクト比を切り替えられるときに選ぶ。
- ノーマル：アスペクト比が固定で、テレビで切り替えられないときに選ぶ。16:9のテレビでは左右に黒い帯が入った状態で表示され、4:3のテレビでは上下左右に黒い帯が入った状態で表示されます。

16:9のテレビ

4:3のテレビ

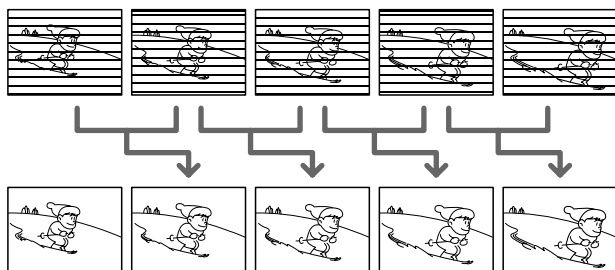
設定と調整

ビデオ素材とフィルム素材のプログレッシブ方式への変換方法について

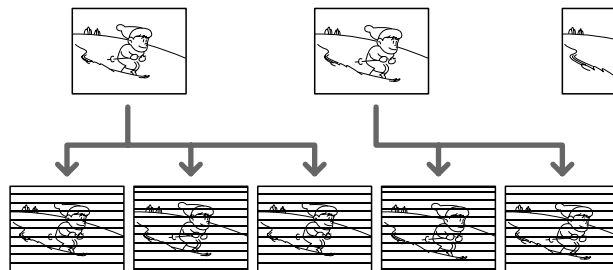
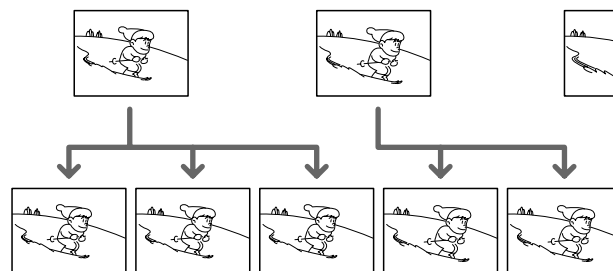
本機では、以下の方法でビデオ素材とフィルム素材それぞれをプログレッシブ方式の映像へ変換しています。

ビデオ素材の変換方法

ビデオ素材は、フィールドという走査線を1つずつ飛ばした間欠画像を2枚組み合わせて、30フレーム（60フィールド）の画像で1秒の映像を構成しています（インターレース方式）。

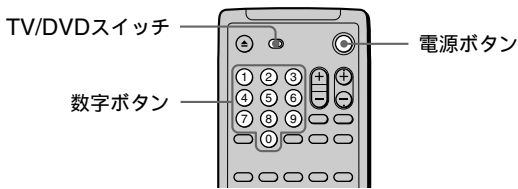
インターレース方式の映像は1秒あたり30フレーム（60フィールド）で構成されていますが、1コマ1コマを上記のフィールド画像で構成すると、走査線が目立つ映像になってしまいます。
また、フィールド画像は走査線を1つずつ飛ばした間欠画像のため、画像そのものの情報量が少なくなってしまいます。そのため映像は密度のない、荒いものとなってしまいます。

プログレッシブ方式の映像は、1秒あたり60フレームで構成されています。本機では映像の動きを検出して、フィールドやフレーム間での補間方法を動きにあわせて判別し、プログレッシブ方式に変換しています。
例えば、動きのない画像の場合には、前フィールドの画像情報を使って補間します。動きのある映像の場合は、画像の動きを検出して、その動く量に応じて同じフィールドの画像情報を使用し、なめらかな映像になるように補間しています。
このような処理を行うことで、インターレース方式と比較して、高品質なプログレッシブ方式の映像をお楽しみいただけます。

フィルム素材の変換方法

フィルム素材は、24コマの画像で1秒の映像を構成してます。通常のテレビでフィルム素材を再生するときは、24コマの画像を、走査線を1つずつ飛ばした間欠（フィールド）画像に分解して表示するため、フィルム素材の持つ本来の情報量を生かすことができませんでした。

この問題を解決するために、本機では1秒あたり24コマの画像を、3フレームと2フレームずつ交互に割り当てることで、1秒60フレームの画像に変換しています。

この処理を行うことで、フィルム素材本来の原画により近い映像を再現するだけでなく、プログレッシブ方式ならではの密度感の高い、高品質な映像をお楽しみいただけます。

付属のリモコンでテレビやアンプを操作する

リモコン信号をお手持ちのテレビのメーカーに合わせると、本機のリモコンでテレビのチャンネルや音量、電源を操作できます。
またAVアンプに本機をつないでいるときは、本機のリモコンでアンプの音量を調整することもできます。

リモコンで各社のテレビを操作する

1 TV/DVDスイッチを「TV」にする。

2 **リモコンの電源ボタンを押したまま、テレビのメーカー番号（2桁）を数字ボタンで入力する。**

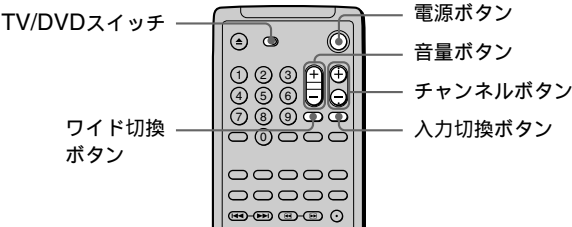
メーカー番号

メーカー番号が2つ以上あるときは、順に試してテレビが操作できるものをお選びください。

テレビのメーカー	メーカー番号
ソニー	01（お買い上げ時の設定）、12
松下電器	02、13
東芝	03
日立製作所	04
三菱電機	05
日本ビクター	06
三洋電機	07、15
シャープ	08、16
NEC	09
パイオニア	10
富士通ゼネラル	11
フナイ	14
アイワ	17
三星電子（SAMSUNG）	18

ご注意

- メーカー番号を入力すると、それまでのメーカー番号は消えてしまいます。
- リモコンの電池を取り換えたときは、メーカー番号が自動的に01（ソニー）に戻ることがあります。その場合は、メーカー番号をもう1度合わせ直してください。

以下のボタンでテレビの操作ができるようになります。

押すボタン	できること
電源	テレビの電源を入／切する。
音量	テレビの音量を調整する。
ワイド切換*	テレビのワイドモードを切り換える。
チャンネル*	テレビのチャンネルを変える。
入力切換*	テレビの入力を切り換える。

* TV/DVDスイッチが「DVD」のときでも使えます。

ご注意

テレビによってはメーカー番号を合わせても操作できないことや、一部のボタンが使えないことがあります。

AVアンプを操作する

1 TV/DVDスイッチを「DVD」にする。

2 **リモコンの電源ボタンを押したまま、AVアンプのメーカー番号（2桁）を数字ボタンで入力する。**

メーカー番号

メーカー番号が2つ以上あるときは、順に試してAVアンプが操作できるものをお選びください。

AVアンプのメーカー	メーカー番号
ソニー	91（お買い上げ時の設定）、89
デンオン	84、85、86
ケンウッド	92、93
オンキョー	81、82、83
パイオニア	99
山水電気	87
松下電器	97、98
ヤマハ	94、95、96

ご注意

- メーカー番号を入力すると、それまでのメーカー番号は消えてしまいます。
- リモコンの電池を取り換えたときは、メーカー番号が自動的に91（ソニー）に戻ることがあります。その場合は、メーカー番号をもう1度合わせ直してください。

音量ボタンでAVアンプの音量を調整できるようになります。

ご注意

接続する機種によっては、AVアンプの音量が調整できないことがあります。

その他

この章では、本機をご使用になる上での参考として役立つ情報を説明しています。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。

電源

電源が入らない。

➡ 電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。

映像

映像が出ない。

➡ 接続コードのプラグがしっかり差し込まれていない。
➡ 接続コードが断線している。
➡ テレビの入力端子を間違えている（15ページ）。
➡ テレビの電源が入っていない。
➡ テレビの入力切り換えでSACD/DVDプレーヤーの映像が映るようにしていない。
➡ ハイビジョンテレビ専用のコンポーネントビデオ入力端子（Y/PB/PR）に本機を接続している。
S映像コードまたは映像コードで接続する。

映像が乱れる。

➡ ディスクに汚れや傷がある。
➡ 本機の映像出力をビデオデッキを経由してテレビに接続していると、一部のDVDプログラムに使用されているコピープロテクション信号が画質に悪影響を及ぼす可能性がある。本機をテレビに直接接続していても画質に問題が生じる場合は、テレビのS映像入力端子へ接続する（15ページ）。
➡ ハイビジョンテレビ専用のコンポーネントビデオ入力端子（Y/PB/PR）に本機を接続している。
S映像コードまたは映像コードで接続する。
➡ プログレッシブ（525p）方式に対応していないテレビとつないでいるときに、「コンポーネント出力」で「プログレッシブ」を選んでいる。
本来裏面のSCAN SELECTスイッチを「INTERLACE」にする。画面が見えるようになったら「コンポーネント出力」を「インターレース」に戻し、本来裏面のSCAN SELECTスイッチを「SELECTABLE」に戻す。
➡ プログレッシブ（525p）方式に対応しているテレビでも、「コンポーネント出力」で「プログレッシブ」を選ぶと映像が乱れることがある。この場合は「コンポーネント出力」を「インターレース」にする。

設定画面の「画面設定」の「TVタイプ」で設定した画像アスペクト比で再生できない。

➡ 画像アスペクト比が固定されているディスクを再生している。

画面に英語でメッセージが表示される。

➡ 設定画面の「言語設定」の「画面表示言語」が「ENGLISH」になっている（55ページ）。

ビデオCDのメニュー画面が表示されない。

➡ PBC対応でないビデオCDを再生している。
➡ PBC対応のビデオCDで決められた操作をしていない。ビデオCDの取扱説明書もあわせて見る。

音声

音が出ない。

➡ 接続コードのプラグがしっかり差し込まれていない。
➡ 接続コードが断線している。
新しい接続コードを使う。
➡ アンプの入力端子を間違えている（17ページ）。
➡ アンプまたはテレビの電源が入っていない。
➡ アンプの入力切換でSACD/DVDプレーヤーの音声が出るようにしていない。
➡ 一時停止、スロー再生になっている。
➡ 早送りまたは早戻しになっている。
➡ スピーカーの接続を確認する（19、20ページ）。
接続したアンプの取扱説明書もあわせて見る。
➡ ドルビーデジタルの音声をDIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子から出力するときは、設定画面の「音声デジタル出力」を「入」に設定する。「入」に設定しないと、DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子から音が出ない（62ページ）。
➡ SACDの音声は、DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子からは出力されない。

雑音が多い。

➡ ディスクに汚れ、傷がある。
➡ CDのDTS音声を再生しているときは、DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子以外の端子からは雑音が出る（23ページ）。

音がひずむ。

➡ 設定画面の「オーディオ設定」の「オーディオ ATT」を「入」にする（61ページ）。

ビデオCD、CDを再生したときに、音に奥行き感がなく、モノラルのように聞こえる。

➡ コントロールメニュー画面で「音声」を「ステレオ」にする（38ページ）。
➡ 正しく接続されているか確認する（15〜20ページ）。

操作

リモコンで操作できない。

➡ リモコンと本体との間に障害物がある。
➡ リモコンと本体との距離が離れている。
➡ 本体のリモコン受光部 に向けて操作していない。
➡ リモコンの電池が消耗している。

再生が始まらない。

➡ ディスクが入っていない（テレビ画面に「ディスクを入れてください」の表示が出ている）。
➡ ディスクが裏返しに入っている。
再生面を下にする。
➡ ディスクが斜めにずれて入っている。
➡ CD-ROMなどの、再生できないディスクを入れている（12ページ）。
➡ 本機で再生できない地域番号のDVDを入れている（9ページ）。
➡ 結露している。ディスクを取り出して電源を入れたままの状態で約30分放置し、再び電源を入れ直してから再生を始める（12ページ）。

再生がディスクの最初から始まらない。

➡ プログラムまたはシャッフル、リピート、A-Bリピート再生になっている（47〜51ページ）。
クリアボタンを押してこれらの機能を解除してから、再生を始める。
➡ リジューム再生になっている。
停止中に、本体またはリモコンの■（停止）ボタンを押してから再生を始める（27ページ）。
➡ 自動的にタイトルメニュー、DVDメニュー、PBCのメニューの画面が表示されるディスクを入れている。

再生が自動的に始まる。

➡ 自動的に再生が始まるDVDを入れている。
➡ 設定画面の「視聴設定」の「自動再生」で「タイマー」を選んでいる。（57ページ）

再生が自動的に止まる。

➡ ディスクによってはオートポーズ信号が記録されているものがある。このようなディスクを再生すると、オートポーズ信号のところで自動的に再生が止まる。

その他

ストップ、サーチ、スロー、リピート再生、シャッフル再生、プログラム再生などの操作ができない。

➡ 操作を禁止しているディスクを再生している。ディスクに付属の説明書もあわせて見る。

プレイモードのいろいろな再生（シャッフル再生、プログラム再生など）ができない。

➡ DVD、ビデオCDによってはできない場合がある。

希望する言語で画面表示されない。

➡ 設定画面の「言語設定」の「画面表示言語」で希望の言語を選ぶ（55ページ）。

音声言語を変更できない。

➡ 再生しているDVDに複数の音声言語が記録されていない。

➡ 音声言語の切り換えを禁止しているDVDを再生している。

字幕を変更できない。

➡ 再生しているDVDに複数の字幕が記録されていない。

➡ 字幕の変更を禁止しているDVDを再生している。

字幕を消すことができない。

➡ 字幕表示を消すことを禁止しているDVDを再生している。

アングルを変更して見ることができない。

➡ 再生しているDVDに複数のアングルが記録されていない。

➡ 表示窓のアングル表示が緑に点灯していない場面で、アングルを切り換えている（40ページ）。

➡ アングルの変更を禁止しているDVDを再生している。

正常に動作しない。

➡ 静電気などの影響で正常に動作しなくなったときは、本体のPOWER（電源）スイッチを押して電源を切り、再び電源を入れる。

表示窓に何も表示されない。

➡ 設定画面の「視聴設定」の「表示窓の明るさ」を「消」にしている。「消」以外にするか、またはリモコンのFLオン/オフボタンを押す（58ページ）。

画面および表示窓に5桁のアルファベットと数字が表示されている。

➡ 自己診断機能が働いている。70ページの表にしたがって対応する。

ディスクトレイが開かず、表示窓に「LOCKED」と表示される。

➡ お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターに問い合わせる。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

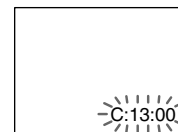
部品の保有期間について

当社では、SACD/DVDプレーヤーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。
なお、補修用性能部品の保有期間は通商産業省の指導にもよるものです。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：DVP-S9000ES
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 自己診断機能の状況：
- 故障したときに再生していたディスク：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

自己診断機能について（アルファベットで始まる表示が出たら）

本機の異常を未然に防ぐため、自己診断機能が働くと、画面および表示窓にアルファベットと数字で5桁のサービス番号（例：C 13 00）が表示され、点滅します。その際は次のように対応してください。

サービス番号の最初の3桁	これが原因です	次のことを確認してください
C 13	ディスクが汚れている	柔らかい布でディスクを拭く（13ページ）
C 31	ディスクが正しく入っていない	ディスクを正しく入れ直す
E XX（XXは任意の数）	異常を未然に防ぐため自己診断機能が働きました。	お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。その際はサービス番号の5桁すべてをお知らせください。 例：E 61 10

主な仕様

システム

形式　SACD/DVDプレーヤー
信号方式　EIAJ標準、NTSCカラー方式

音声特性

周波数特性　DVD（PCM 96 kHz再生時）：
2 Hz～44 kHz
（44 kHz時、–2dB ±1 dB）
CD：2 Hz～20 kHz（±0.5 dB）*
SACD：2 Hz～100 kHz
（50 kHz時、–3 dB ±1 dB）
信号対雑音比　DVD：115 dB
全高調波ひずみ率　DVD：0.0015 %
CD：0.002 %*
SACD：0.0015%
ダイナミックレンジ　DVD：103 dB
SACD：103 dB
CD：99 dB*
ワウ・フラッター　測定限界（±0.001% W PEAK）以下*

出力端子

端子名	端子形状	最大出力レベル	負荷インピーダンス
AUDIO OUT (1、2)	ピンジャック	2 Vrms (50 kΩ)	10k Ω 以上
DIGITAL OUT (OPTICAL)	光出力コネクター	–18 dBm	発光波長 660 nm
DIGITAL OUT (COAXIAL)	ピンジャック	0.5 V_{P-P}	75 Ω 終端
VIDEO OUT (1、2)	ピンジャック	1.0 V_{P-P}	75 Ω 同期負
S VIDEO OUT (1、2)	4 ピンミニ DIN	輝度信号：1.0 V_{P-P} 色信号：0.286 V_{P-P}	75 Ω 同期負 75 Ω 終端
COMPONENT VIDEO OUT (Y、P_B/C_B、P_R/C_R)	ピンジャック	Y: 1.0 V_{P-P} P_B/C_B、P_R/C_R：±0.35 V_{P-P}	75 Ω 同期負 75 Ω 終端
D1/D2	D端子	Y: 1.0 V_{P-P} P_B/C_B、P_R/C_R：±0.35 V_{P-P}	75 Ω 同期負 75 Ω 終端

電源、その他

電源　AC 100V、50/60 Hz
消費電力　38 W
最大外形寸法　430×126×398 mm
（幅／高さ／奥行き）
質量　約12.6 kg
許容動作温度　5～35°C
許容動作湿度　25～80 %

付属品

14ページをご覧ください。

* EIAJ（日本電子機械工業会）の規格による測定値です。

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

用語解説

インターレース（飛び越し走査）（64ページ）
映像の1フレーム（コマ）を2つのフィールド画像で半分ずつ表示する方式で、従来のテレビの表示方式。奇数フィールドでは奇数番号の走査線、偶数フィールドでは偶数番号の走査線を交互に表示するようになっている。

スーパーオーディオCD（SACD）（10ページ）
現在の音楽CDの規格を元に、より多くの情報を記録できるように設計された高音質オーディオ規格。1層ディスクと2層ディスク、ハイブリッドディスクの3種類があり、ハイブリッドディスクは音楽CDとSACDの両方の構造を持つように規定されている。

視聴年齢制限（59ページ）
国ごとの規制レベルに合わせて、視聴年齢制限に対応したディスクの再生を制限する、というDVDの機能。制限のしかたはDVDによって異なり、全く再生できない場合や過激な場面をとばしたり、別の場面に差し替えて再生する場合などがある。

タイトル（11、34ページ）
DVDに記録されている映像や曲の区切りのいちばん大きな単位。通常は映像ソフトでは映画1作品、音楽ソフトではアルバム1枚（あるいは1曲）にあたる。それぞれのタイトルに順に付けられた番号をタイトル番号という。

チャプター（11、34ページ）
DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルより小さい単位。1つのタイトルはいくつかのチャプターで構成され、それぞれのチャプターに順に付けられた番号をチャプター番号という。

トラック（11、34ページ）
CDやビデオCDに記録されている、映像や曲の区切り（1曲分）のこと。それぞれのトラックに順に付けられた番号をトラック番号という。

ドルビーデジタル（17、62ページ）
ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術であり、5.1チャンネル・サラウンドに対応している。リアチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

ドルビープロロジック（61ページ）
ドルビーラボラトリーズ社がサラウンド音声のために開発した音声信号の処理技術。入力信号にサラウンド信号があるとき、プロロジック処理をして、フロント、センター、リアに信号を出力する。リアチャンネルはモノラルになる。

ビットレート（44ページ）
DVDに圧縮して記録されている画像と音声の、1秒あたりの情報量を示す値。単位は画像の場合Mbps（Mega bit per second）で、1Mbpsは1秒あたりの情報量が1,000,000ビットであることを表す。音声の場合の単位はkbps（kilo bit per second）。
この値が大きいほど情報量は多くなるが、必ずしも画質や音質とは直接関係しない。

ビデオCD（10ページ）
動画の記録されているCD。
ビデオCDでは、デジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG1」を使うことにより、映像情報を平均約140分の1に圧縮している。これにより、12cmのディスクに最大74分までの動画を記録できる。
また、音声情報についても、人間には基本的には聴こえない音声を圧縮して記録し、従来の音楽用CDと比較すると、音声情報も約6分の1に圧縮している。
ビデオCDには、動画や音声の再生だけが可能なバージョン1.1と、高精細の静止画の再生やPBC（プレイバックコントロール）機能を持ったバージョン2.0がある。本機は両方のバージョンに対応している。

フィルム素材（63、64ページ）
DVDの映像素材には、大きく分けてビデオ素材とフィルム素材があり、このうちフィルム素材とは映画フィルム（1秒24コマ）をDVDに記録したもの。

プログレッシブ（順次走査）（64ページ）
映像の1フレーム（コマ）を2つのフィールド画像で半分ずつ表示するインターレース方式に対して、1フレームを1つの画像で表示する方式。従来のインターレース方式が1秒を30フレーム（60フィールド）で構成するのに対して、はじめから1秒を60フレームで構成するため、静止画や文字、横線の多い場面などで高品質な映像を再現できる。
本機は525プログレッシブ（525p）方式に対応しています。

マルチアングル（40ページ）
DVDの機能のひとつで、同じ場面が視点を変えて複数のアングル（カメラの位置）で記録されていること。

マルチランゲージ（38、39、55ページ）
DVDの機能のひとつで、同じ映像に対して音声や字幕が複数の言語で記録されていること。

ビデオ素材（63、64ページ）
DVDの映像素材には、大きく分けてビデオ素材とフィルム素材があり、このうちビデオ素材はテレビドラマやテレビアニメーションなどのテレビ放送された番組（1秒30フレーム、60フィールド）をDVDに記録したもの。

プレイバックコントロール（PBC）（28ページ）
ビデオCD（バージョン2.0）に記録されている、再生をコントロールするための信号。
PBC対応ビデオCDに記録されているメニュー画面（選択画面）を使って、簡単な対話型のソフトや、検索機能を持ったソフトなどを楽しめる。

DVD（10ページ）
CDと同じ直径で最大8時間までの動画が記録できるディスク。
片面1層で4.7GB(Giga Byte（ギガ バイト）)とCDの7倍の情報が記録でき、片面2層で8.5GB、両面1層では9.4GB、両面2層では17GBが記録できる。
画像の記録はデジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG2（エムペグ）」を採用し、映像データを約1/40（平均）に圧縮して記録する。また画像の状態に合わせて割り当てる情報量を変化させる可変レート符号化技術も採用されている。音声情報はPCMの他、ドルビーデジタルやDTSを用いて記録でき、より臨場感のある音声が楽しめる。
またマルチアングル、マルチランゲージ、視聴年齢制限などさまざまな付加機能も用意され、より高度な楽しみかたができる。

D1/D2映像信号（16ページ）
D端子付きデジタルテレビと1本のケーブルで簡単に映像信号を接続できる。コンポーネント信号で接続するため、より高画質な画像となる。D端子には対応する信号フォーマットによってD1、D2とD3端子がある。
- D1端子：525i（480i）の信号に対応
- D2端子：525i（480i）と525p（480p）の信号に対応
- D3端子：525i（480i）と525p（480p）、1125i（1080i）の信号に対応

* iはインターレース、pはプログレッシブの略。カッコ内の数字は有効走査線数で数えたときの別称。

DTS（12、62ページ）
デジタルシアターシステムズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術であり、5.1チャンネル・サラウンドに対応している。リアチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。
全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションがよく、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

言語コード一覧表（詳しくは38、39、55ページをご覧ください。）

言語名表記はISO639:1988（E/F）に準拠

コード	言語
1027	Afar
1028	Abkhazian
1032	Afrikaans
1039	Amharic
1044	Arabic
1045	Assamese
1051	Aymara
1052	Azerbaijani
1053	Bashkir
1057	Byelorussian
1059	Bulgarian
1060	Bihari
1061	Bislama
1066	Bengali; Bangla
1067	Tibetan
1070	Breton
1079	Catalan
1093	Corsican
1097	Czech
1103	Welsh
1105	Danish
1109	German
1130	Bhutani
1142	Greek
1144	English
1145	Esperanto
1149	Spanish
1150	Estonian
1151	Basque
1157	Persian
1165	Finnish
1166	Fiji
1171	Faroese
1174	French
1181	Frisian
1183	Irish
1186	Scots Gaelic
1194	Galician
1196	Guarani
1203	Gujarati
1209	Hausa
1217	Hindi
1226	Croatian
1229	Hungarian
1233	Armenian
1235	Interlingua
1239	Interlingue
1245	Inupiak
1248	Indonesian
1253	Icelandic
1254	Italian

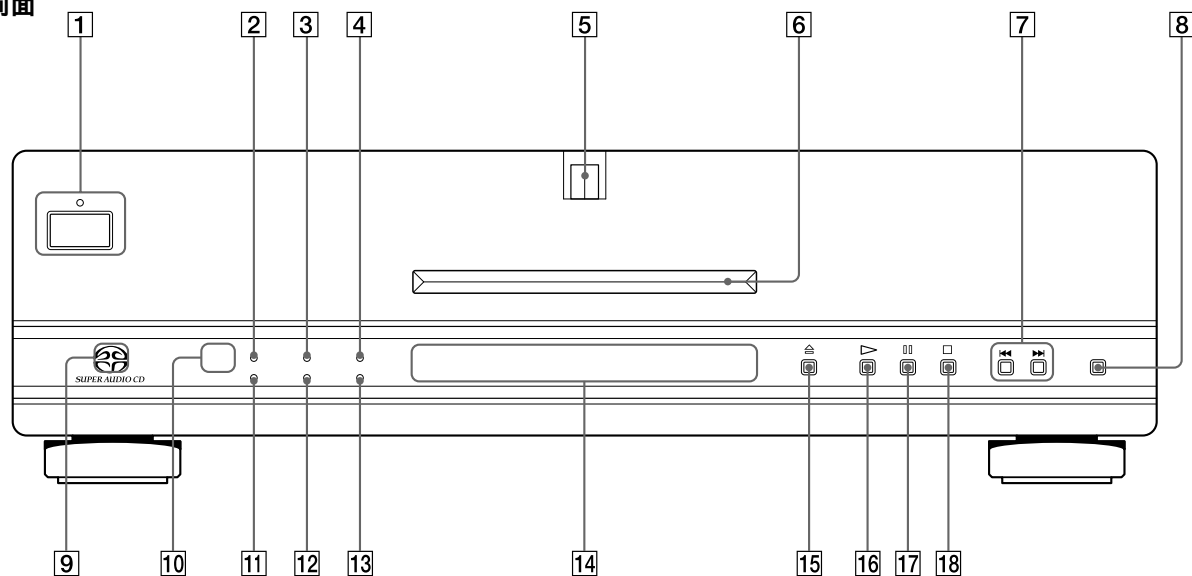
コード	言語
1257	Hebrew
1261	Japanese
1269	Yiddish
1283	Javanese
1287	Georgian
1297	Kazakh
1298	Greenlandic
1299	Cambodian
1300	Kannada
1301	Korean
1305	Kashmiri
1307	Kurdish
1311	Kirghiz
1313	Latin
1326	Lingala
1327	Laothian
1332	Lithuanian
1334	Latvian; Lettish
1345	Malagasy
1347	Maori
1349	Macedonian
1350	Malayalam
1352	Mongolian
1353	Moldavian
1356	Marathi
1357	Malay
1358	Maltese
1363	Burmese
1365	Nauru
1369	Nepali
1376	Dutch
1379	Norwegian
1393	Occitan
1403	(Afan)Oromo
1408	Oriya
1417	Punjabi
1428	Polish
1435	Pashto; Pushto
1436	Portuguese
1463	Quechua
1481	Rhaeto-Romance
1482	Kirundi
1483	Romanian
1489	Russian
1491	Kinyarwanda
1495	Sanskrit
1498	Sindhi
1501	Sangho
1502	Serbo-Croatian
1503	Singhalese
1505	Slovak

コード	言語
1506	Slovenian
1507	Samoan
1508	Shona
1509	Somali
1511	Albanian
1512	Serbian
1513	Siswati
1514	Sesotho
1515	Sundanese
1516	Swedish
1517	Swahili
1521	Tamil
1525	Telugu
1527	Tajik
1528	Thai
1529	Tigrinya
1531	Turkmen
1532	Tagalog
1534	Setswana
1535	Tonga
1538	Turkish
1539	Tsonga
1540	Tatar
1543	Twi
1557	Ukrainian
1564	Urdu
1572	Uzbek
1581	Vietnamese
1587	Volapük
1613	Wolof
1632	Xhosa
1665	Yoruba
1684	Chinese
1697	Zulu

1703 **無指定**

各部のなまえ

詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

本体前面

1 POWER（電源）**スイッチとランプ**　（21）
本機の電源を入/切するときや、本体のPOWER（電源）スイッチを押して電源を入れた後で、本機をスタンバイモード（待機状態）にするときに押す。

2 VIDEO OFF**ランプ**　（24）
リモコンのビデオ オン/オフボタンで映像出力を「切」にしているときと、本体のAUDIO DIRECTボタンを押したときに点灯する。

3 PROGRESSIVE**ランプ**　（57）
本機のCOMPONENT VIDEO OUT端子からプログレッシブ方式で映像を出力しているときに点灯する。

4 SACD**ランプ**　（24）
SACDの音声を再生するときに点灯する。

5 **ディスクランプ**
本機にディスクが入っているときに点灯する。

6 **ディスクトレイ**　（22）
再生するディスクを入れる。

7 PREV ⏮（前）/NEXT ⏭（次）**ボタン**　（25）
前の場面や曲に戻したり、次の場面や曲に進めたりするときに押す。

8 AUDIO DIRECT**ボタンとランプ**　（24）
音声デジタル出力と映像出力を「切」にする。「切」のときはランプが点灯する。

9 SACD**ロゴランプ**　（24）
本機にSACDのディスクが入っていて、SACDの音声を出力しているときに点灯する。また、本機にディスクが入っていないときにも点灯する。

10 **（リモコン受光部）**（14）
リモコンからの信号を受信する。

11 DIGITAL OFF**ランプ**　（24）
「オーディオ設定」の「音声デジタル出力」を「切」にしているときと、本体のAUDIO DIRECTボタンを押してデジタル出力していないときに点灯する。

12 FILM**ランプ**　（63）
フィルム素材の映像信号をふつうに再生しているときに点灯する。
フィルム素材とビデオ素材が混在しているDVDディスクもあるため、部分的にあるビデオ素材を検知すると、ランプが点滅したり消灯したりすることがある。

13 FL OFF**ランプ**　（29）
リモコンのFLオン/オフボタンを押して表示窓を消したときと、「視聴設定」の「表示窓の明るさ」が「消」に設定されているときに点灯する。

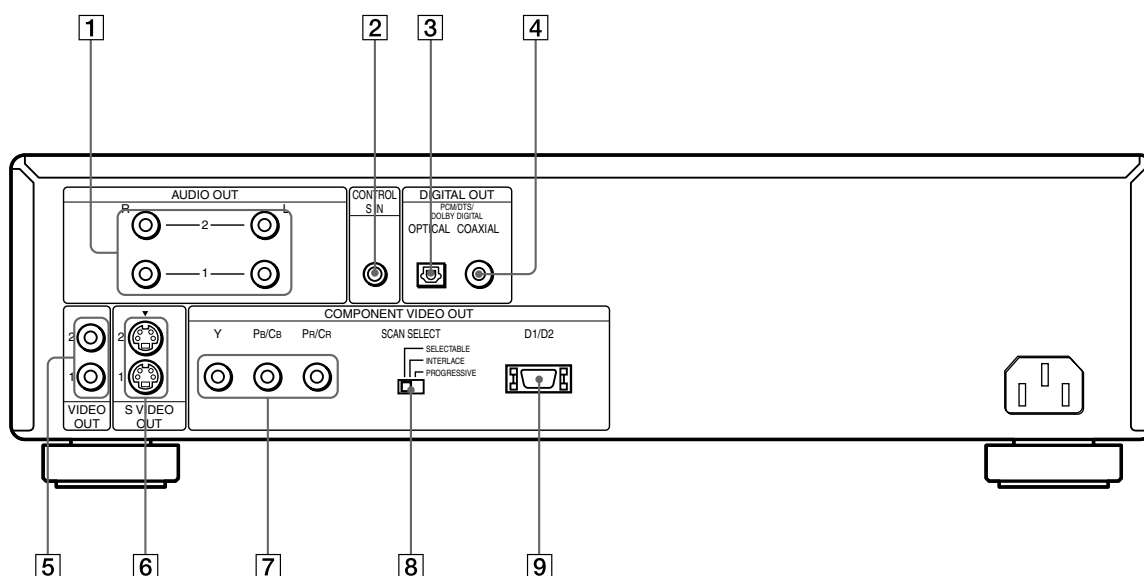
14 **表示窓**　（29）
再生時間などを表示する。
詳しくは29ページの「表示窓の見かた」をご覧ください。

15 ≙ **（開/閉）ボタン**　（22）
ディスクトレイを出し入れするときに押す。

16 ▷ **（再生）ボタンとランプ**　（22）
再生するときに押す。再生中はランプが点灯する。

17 ▯▯ **（一時停止）ボタンとランプ**　（21）
再生を一時停止するときに押す。一時停止中はランプが点灯する。

18 □ **（停止）ボタン**　（25）
再生を止めるときに押す。

本体裏面

1 AUDIO OUT（1、2）**（音声出力）端子**　（15、17）
テレビやアンプの音声入力端子とつなぐときに使う。

2 CONTROL S IN **（コントロールS入力）端子**（16）
コントロールSに対応した機器とつなぐときに使う。

3 DIGITAL OUT OPTICAL **（音声デジタル出力（光））端子**　（17、20）
光デジタル接続コードでオーディオ機器とつなぐときに使う。つなぐ前にキャップをはずす。

4 DIGITAL OUT COAXIAL **（音声デジタル出力（同軸））端子**　（17、20）
同軸デジタル接続コードでオーディオ機器とつなぐときに使う。

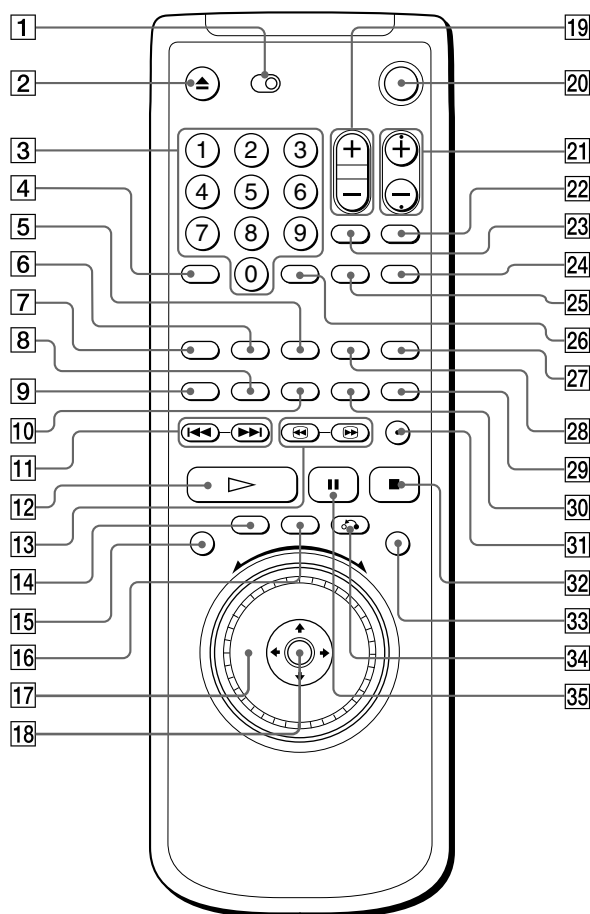
5 VIDEO OUT（1、2）**（映像出力）端子**　（15）
テレビやモニターの映像入力端子とつなぐときに使う。

6 S VIDEO OUT（1、2）**（S映像出力）端子**
（15、17、20）
テレビやモニターのS映像入力端子とつなぐときに使う。

7 Y、P_B/C_B、P_R/C_R COMPONENT VIDEO OUT **（コンポーネントビデオ出力）端子**　（16）
本機の出力信号に対応したコンポーネントビデオ入力端子（Y、P_B/C_B、P_R/C_R）のあるテレビやプロジェクターにつなぐときに使う。

8 SCAN SELECT**スイッチ**　（57）
コンポーネント映像信号を出力するときの方式を選ぶ。
- SELECTABLE：設定画面の「視聴設定」の「コンポーネント出力」で選んでいる方式で出力する。
- INTERLACE：インターレース方式
- PROGRESSIVE：プログレッシブ（525p）方式

9 D1/D2 COMPONENT VIDEO OUT**端子（コンポーネントビデオ出力）**（16）
本機の出力信号に対応したD映像入力端子のあるテレビにつなぐときに使う。

リモコン

1 **TV/DVD切り替えスイッチ** （65）
リモコンのテレビとDVD（アンプ）の操作を切り換えるときに使う。

2 **⏏開/閉ボタン** （25）
ディスクトレイを出し入れするときに押す。

3 **数字ボタン** （28）
画面に表示されている項目を選ぶときに使う。

4 **クリアボタン** （28）
選んだ項目を取り消すときに使う。

5 **くり返しボタン** （50）
リピート再生をするときに押す。

6 **プログラムボタン** （48）
プログラム再生をするときに押す。

7 **シャッフルボタン** （49）
シャッフル再生をするときに押す。

8 **アングルボタン** （40）
DVDのアングルを切り換えるときに押す。

9 **音声ボタン** （38）
DVDやCD、ビデオCDの音声を切り換えるときに押す。

10 **字幕ボタン** （39）
DVDの字幕を切り換えるときに押す。

11 **I◀◀（前）/▶▶I（次）ボタン** （25）
前の場面や曲に戻したり、次の場面や曲に進めたりするときに押す。

12 **▷再生ボタン** （25）
再生するときに押す。

13 **⏪ / ⏩サーチボタン** （25）
場面や曲を探すときに押す。

14 **タイトルボタン** （27）
タイトルメニューを出すときに押す。

15 **画面表示ボタン** （31）
コントロールメニュー画面を表示させるときに押す。

16 **DVDメニューボタン** （28）
DVDメニューを出すときに押す。

17 **クリックシャトル** （25）
主に速さを変えながら再生したいときに使う。

18 **←／↑／↓／→／ 決定ボタン** （27）
画面に表示されている項目を選ぶときに使う。

19 **音量ボタン** （65）
TV/DVD切り替えスイッチが「TV」のときはテレビの、「DVD」のときはアンプの音量を調整するときに使う。

20 **電源ボタン** （21）
本体のPOWERスイッチを押して電源を入れたあとにこのボタンを押すと、本機の電源を入れたり、スタンバイモード（待機状態）にすることができる。TV/DVD切り替えスイッチが「TV」のときは、テレビの電源を入／切できる。

21 **チャンネルボタン** （65）
テレビのチャンネルを変えるときに使う。

22 **入力切換ボタン** （65）
テレビのビデオ入力を切り替えるときに使う。

23 **ワイド切換ボタン** （65）
テレビのワイドモードを切り替えるときに使う。

24 **ビデオオン/オフボタン** （24）
映像の出力を入/切するときに使う。

25 **FLオン/オフボタン** （29）
表示窓の表示を入/切するときに使う。

26 **決定ボタン**
選んだ項目を決定するときに押す。

27 ピクチャーメモリーボタン（56）
画像を記憶させるときに使う。

28 A↔Bボタン（51）
A-Bリピート再生をするときに使う。

29 SACD/CDボタン（24）
SACDのハイブリッドディスクで、SACDとCDの再生レイヤーを切り替えるときに使う。

30 時間／テキストボタン（29）
表示窓や画面に再生時間などを表示させるときに押す。

31 照明ボタン（25）
▷再生ボタン、❚❚一時停止ボタン、■停止ボタン、画面表示ボタンを点灯させるときに使う。

32 ■停止ボタン（25）
再生を止めるときに押す。

33 ジョグボタンとランプ（25）
クリックシャトルでコマ送りするときに押して、点灯させる。

34 リターンボタン（28）
ひとつ前の選択画面に戻りたいときに押す。

35 ❚❚一時停止ボタン（25）
再生を一時停止するときに押す。

索引

五十音順

アルファベット／数字順